

## 会 議 録

会議の名称		つくば市文化財保護審議会（第1回）		
開催日時		令和元年7月18日 開会14:00 閉会16:10		
開催場所		市役所401会議室		
事務局（担当課）		教育局文化財課		
出席者	委員	藤川昌樹会長、田中ひとみ副会長、大関武委員、 岡野一穂委員、毛塚裕之委員、徳丸亞木委員、 中村幸雄委員、橋本喜美子委員		
	その他			
	事務局	教育局中山次長、文化財課美野本課長、石橋課長補佐、石川保存係長、 広瀬活用係長、山本保存係主務、五十嵐保存係主事		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0 人
非公開の場合はその理由				
議題		(1)平成30年度主要事業概要報告について (2)令和元年度主要事業計画概要について (3)その他		
会議録署名人			確定年月日	
会議次第	1 開会・挨拶 2 議事 3 閉会			

<挨拶：中山次長、藤川会長>

審議内容

(1)平成 30 年度主要事業概要報告について

事務局：配布資料に基づき説明。

委員：平沢官衙遺跡歴史ひろばについて、行事等で多くの方が訪れているようですが、一方、年間で見ると来場者数が減少しているのはなぜでしょうか。

事務局：この数字は案内所で数えているものですが、特に春の桜の時期には1日に500人とか1,000人の方が訪れています。30年は桜の時期が3月で、その分が29年度にカウントされているために少なくなっているというの也有ります。全体の印象で見れば、大きく増えてもいなければ大きく減ってもいないように感じます。

委員：歴史文化教育支援の出前授業について、中学校での開催が無いのは何とかしたいなと思います。社会科としては難しいかもしれませんが、つくばスタイル科のなかで活用できるのではないのでしょうか。

事務局：出前授業は申出を受けて行っているのですが、過去をみると桜中学から一件あった以外は聞かない状況です。去年は台風のため行えませんでした。毎年夏に先生方に向けた研修を開催して、その際に出前授業の宣伝も行っています。

委員：夏休み自由研究相談室での8件あった相談は、具体的にどのような内容が多かったのでしょうか。

事務局：谷田部小学校で地域の歴史を調べる宿題が出たらしく、同校の児童が多く来室しました。また小中学生を想定したものでしたが、自由研究に取り組んでいる高校生の来室もありました。

副会長：自由研究相談室はいつ、どこで行っているのでしょうか。

事務局：部屋は市役所の文化財課がある4階会議室、まさにここで行って、郷土関係の本や土器を置いたりして自由に来室できるようにしました。去年は8月21日、22日に開催していましたが、自由研究の相談には時期が遅かったのではないかと考え、今年8月7日、8日に開催します。

委員：施設利用と出前授業に関して、例えば小学校から市の展示施設で説明を行ってほしいと依頼があった場合、その参加者は「6 文化財資料館（展示施設）維持管理」の施設利用者数と「8 歴史文化教育・活用」の出前授業の参加者数の両方でカウントさ

れるのでしょうか？

事務局 : 施設利用者数としてカウントしています。その中で資料1の6(5)①では解説の依頼があった小中学校の数を( )内に示しています。

委員 : 歴史文化教育の成果として取り上げれば、これだけ学校の方では文化財の専門の先生から説明を受けたいという要望があるのだという、アピールになるのではないかと思います。実際に、学校の教育現場は文化財課の専門の方を必要としています。

事務局 : 重要なありがたい指摘ですので、小中学校の文化財展示施設利用は「6文化財資料館維持管理」の「(5)その他」と「8歴史文化教育・活用」の「(3)学校への歴史・文化教育の支援」を関連させるようにしたいと思います。

副会長 : いまの話に関連して、講座を行う際に何か定型のプログラムのようなものはあるのでしょうか。よくやられていること、要望が多いテーマなどあるかと思うのですが。

事務局 : 出前講座全般の話になりますが、文化財課の場合は基本的に定型のものではなく、依頼された方と打合せさせていただいて、どういったことを聞きたいのか意向を受けオーダーメイドで作っています。ただ素材がもともと集まっているので、そこまで時間をかけているわけではありません。

副会長 : 各学校でそれぞれの要望もあるかと思いますが、「学校向けにはこういうものがあります」というメニューのようなものがあれば良いのではないのでしょうか。プログラム集やメニュー表のようなものがあれば、学校の先生にとっても「こういうことができるのか」というヒントになるのではないかと思います。

事務局 : 文化財課の担当によって話すことがバラバラになっているため、統一したプログラムを作ろうとしたことはありましたが、そこまで手が回らなかったという経緯があります。ただ、仰ることは必要と考えていたため、今年は増員もあり人の余裕も出てきたので資料を分類し、まとめる作業を開始しています。そういったものを学校に持って行ければと考えています。

委員 : 今のことに関連して小学校の現場の話をさせていただきますと、文化財課で作成した『ちょっとむかしの暮らし』のリーフレット、この資料が学校現場で非常に人気があります。学習指導要領が来年度変わり、今は移行期間なのですが、そういったなかでもこれは非常に好評だと聞いています。それからもう一つ、県で作っていた『輝く郷土の先人たち』という本が去年までは県内全ての4年生に寄贈されていたのですが、今年度から無くなってしまいました。そのようななかで、文化財課主催の巡回企

画展で展示した際に作った飯塚伊賀七のリーフレットは、有効な教材として学校の方でも助かっています。

事務局 : 学校向けの資料を作るための予算を毎年少しずつ取っています。ほかに戦時中の飛行場や平沢官衙遺跡のパンフレット、あるいは年表ですとかを作ってきており、そういうものを学校に配れるよう毎年考えています。

副会長 : それに関連して、移動博物館のようなものがあると良いかと思います。茨城県自然博物館では車ひとつに自然に関する標本や剥製を積んだセットがあり、それが学校を巡回しています。あまり大きなものなどは無理でしょうが、何か子どもたちが実物に触れることができる移動博物館のセットが資料と併せてあれば活用できるのではないかと思います。

事務局 : 学校の出前講座で古い時代を扱うようなときは土器などを見繕ったりしていますし、先生のなかには県教育財団出身の方も学校におられるので「これを借りたい」というものがあれば教材として貸したりもしています。移動博物館については考えたことはありますが、やらなかった理由の一つとして、つくば市は広いのでそれぞれの地域のものを持って行った方が生徒の反応が良いということがあります。例えば茎崎や谷田部の子どもたちには、筑波山麓の土器を見せるよりも、「学校の隣にこういう遺跡があったんだよ」と言った方が興味の示し方が違うので、なるべく近くのものを持って行くようにしています。

会長 : 桜歴史民俗資料館で用地を買収したという話がありましたが、旧市庁舎の後は市としてはどのように使っていく予定でしょうか。

事務局 : まだ決まっていないようです。桜歴史民俗資料館の土地についてはこれまで借地だったのですが、区画整理事業によって所有者がUR都市再生機構に変わり、元の所有者の土地が区画整理地内に換地されたため購入する必要が生じました。

会長 : トイレの改修も進んでいるとのことでしたが、立地としてもつくば市のなかでもかなり端に寄った場所ですし、そこでどこまでやり続けて行くのかということはどこかで判断しなければならないと思います。桜でやっていくということであれば本格的にリニューアルすることを考えてもいいかもしれませんし、そうでないならば、二重投資を避けるためにも新しい施設を造ることも考えられると思います。保存活用計画も策定されたことですし、そろそろ中長期の計画を立てるべきではないでしょうか。

事務局 : 施設のあり方についてはまさに保存活用計画のなかで検討しようとしたものの結論

が出なかった部分で、来年再来年という話ではなく時間をかけて検討していく必要があります。今はそれぞれの施設を活かしてやるしかないと思うのですが、10年くらい先を見据えて継続的に審議会のなかでも話題にしていきたいと思います。

会長 : 施設のあり方について、市の総合計画や実施計画のなかではどのような位置付けになっているのでしょうか。

事務局 : 博物館などは入っていませんが、今の教育委員の方のなかにも中心的な建物が必要であるとの考えをお持ちの方もいらっしゃいます。

副会長 : 金田官衙遺跡との関連として何か考えられないのでしょうか。

事務局 : 今すぐの話ではありませんが、すぐ近くなので桜資料館を史跡のガイダンス施設にするということも、新規に作る等その他の選択肢と同様に考えられます。

会長 : つくば市も広いので、一か所に大きい施設を建てるのが本当に正しいかも分かりません。それも含めて様々な議論を進めていく必要があると感じます。

## (2) 令和元年度主要事業計画報告について

事務局 : 配布資料に基づき説明。

委員 : つくば物語が今年度休止とのことですが、山麓秋祭りは例年どおり行うのですか。

事務局 : 山麓秋祭りは開催します。つくば物語がない分、市観光部局では秋祭り全体への支援を強化していく方向と聞いています。文化財課でも、例年地元 NPO が継続してきた平沢官衙遺跡歴史ひろばでのミニコンサートに加え史跡ウォーキングを同日開催として、連携しようと計画しています。

会長 : 薬師堂について、以前より傾斜は進んでいます。雨漏りしているわけでもなく、そこまで急速に傷みが進行するわけでもないのかもしれませんが、やはり市が計画的な修繕の呼び掛けなどを行っていく必要があるのかもしれませんが。ここ以外にも危ないものは恐らく色々あるかと思います。

事務局 : 一気に修理希望が出ても、「では支援をしましょう」とは中々できないかとは思いますが。

会長 : もちろん、台風などが来た際に予想外に傷みが出て「なんとかしてほしい」という声が出てくる場合もあるかと思いますが、ある程度ビジョンを持っておかなければならないと思います。受け身でやっていると、この先、市の文化財は大変なのではないでしょうか。

事務局 : アンケートを通じて「直したいか」という意向も聴いてはいますので、修理の長期的な計画は順次整備していけると思います。

委員 : 市指定文化財で早急な対処が必要なものは何件くらいありますか。

事務局 : いま話しがあるのは2件程です。ただ具体的な修理等の金額が出てみないと、どういった対処ができるか分かりません。

会長 : お金をもっているところは修理ができて、ないところは修理ができないという可能性もあります。こういうところこそ市が気をつけないと文化財が失われてしまうので、気にかけてほしいです。

事務局 : 文化財サポーター事業について資料6に基づき説明。

委員 : 文化財のパトロールは今もやっているのでしょうか。

事務局 : 県文化財保護指導委員と一緒に年2回巡視しています。文化財サポーター事業での巡視活動はそれよりももっと活用と一体となったイメージです。また、今やっている巡視は県の事業で国・県指定文化財を中心に巡視しているため、その分、市の文化財の巡視が甘くなっている面もあります。所有者の方が見せてくれるかというところもありますが、みんなで見に行くと価値を共有すれば所有者の方にも誇りを持ってもらえるのではないかと考えています。

委員 : ボランティア養成について、11月から1月までの全6回の講座を受ければ誰でも免許皆伝になるのでしょうか。何か審査はないのでしょうか。

事務局 : 落とすためのものではないですが、実際に施設の解説をしてもらうなどの審査をするつもりです。現在、小田城跡などでもボランティアの方に解説をお願いしていますが、講座をやる一番の理由は、人によって説明することがバラバラになってしまわないよう、「説明の型をつくる」と考えています。

委員 : この養成講座は毎年開催するのでしょうか。1回目の集まり次第では、これ1度きりということもあるのでしょうか。

事務局 : 何回か行って人数を増やしていかなければならないと考えています。まず、文化財サポーターという名前でボランティアを中心とした小人数で始めていって、どこかでファンクラブ型へと本質的な方向を変える時期がくるのではないかと思います。

委員 : 谷田部では飯塚伊賀七を地域振興の中で取り挙げていこうという機運があり、伊賀七を主人公にした演劇をする劇団もできた。ボランティアとの連携もできるのではな

いでしょうか。

事務局 : 市周辺市街地振興室で市内 8 地区の振興に力を入れていますが、谷田部もその一つで、勉強会をしている中で伊賀七を取り上げようという話となっているようです。演劇や昨年の文化祭で地元の方が郷土資料館や谷田部藩関係の史跡を案内する企画をしています。

委員 : 商店街の店を改装して劇場や町の案内に使おうとしており、伊賀七の資料を展示したいという希望もあると聞いています。

事務局 : 県指定の和時計以外には文化財としての制約・規制はなく、所有者の意向によるところが大きいです。ただし、郷土資料館のあり方にも関わることであり、資料の保管環境として問題が無いかも考えなければならず、相談していく必要があります。

委員 : ボランティアが解説する対象は、一般の方を想定しているのでしょうか。

事務局 : 最初は学校対応から始めて行って、その先として市民の方への解説をお願いしようと考えています。

委員 : つくば市の特徴として外国人の方が多いというのがありますので、そういう方を対象にした解説ボランティアが作れば市民にとっても良いのではないかと思います。

事務局 : できればとても良いと思います。やり方は今後検討したいと思います。

会長 : 情報発信の手段について、電子メールだけにするのはどうでしょうか。携帯電話をお持ちの方は多いですし、今から郵送を始めてしまうとやめることができなくなってしまうように感じます。

副会長 : どうしても郵送が良いという方がいらっしゃれば、その方だけメールで送った内容を郵送して、その代わり郵送費を負担してもらう方法はどうでしょうか。

事務局 : メールでの連絡を前提とすれば、できることも増えてきます。第一案として考えます。

### (3)その他

事務局 : 保存活用計画掲載事業の進捗管理・評価について資料 7 に基づき説明

会長 : 事務事業評価の調書の提出はいつになるのですか。

事務局 : スケジュールを資料に載せてあります。

会長 : 内容としては事務事業評価の調書をそのまま審議会の資料としてもいいのではないのでしょうか。われわれには見やすいです。

事務局 : 同じ資料でできればありがたいです。ただし、欄が小さいところもあるので、補足する資料が必要かとも思います。

会長 : 写真等の資料も挿入して1枚にまとめればいいのですが。

事務局 : システム入力のため写真は挿入できません。また、文化財課の事業の場合、埋蔵文化財保存の調整や展示施設の案内など、業務量が相手方からの依頼により決まるものが多く、指標を立てにくいという性質があります。そのため、調査件数の増減や施設の解説件数の変化には、別の資料を添付する必要があります。調書の方向性の部分も行政的な視点からの評価であり、審議会での評価と差が出ることはあります。

会長 : まずはこの調書を資料としてみたらどうでしょうか。

委員 : 予算もわかるので良いと思います。

事務局 : 評価に関する審議会の意見は、別にまとめて公表とすることを考えます。試行錯誤となりますが、次回の中間評価から事務事業評価の調書を資料としていきたいと思えます。

会長 : 意見も出尽くしたようなので、審議を終わります。

閉会 (午後4時10分終了)

# 令和元年度第1回文化財保護審議会 会議次第

と き 令和元年7月18日（木）

午後2時00分～

ところ 市役所401会議室

## 1 開会・挨拶

## 2 議事

(1) 平成30年度主要事業概要報告について

(2) 令和元年度主要事業計画概要について

(3) その他

## 3 閉会

## 平成30年度主要事業概要報告

※〈数値〉は昨年度

## 1 文化財保護審議会

(1) 会議・研修 … 3回・0回

- ① 5/14 … 議題：平成29年度事業報告、30年度事業計画、文化財保存活用計画、その他  
内容：昨年度悉皆調査成果、施設のあり方、資料公開、文化財保存活用計画案
- ② 10/25 … 議題：平成30年度上半期事業報告、下半期事業計画、その他  
内容：今年度悉皆調査成果、小田城跡催事、文化財保存活用計画案
- ③ 1/28 … 議題：文化財保存活用計画案、筑波山神社神橋修理工事、その他  
内容：文化財保存活用計画承認、神橋修理工事指導・視察

(2) 諮問・答申他 … つくば市文化財保存活用計画」の承認

(3) その他 … 7/1 委員改選

## 2 文化財調査 [(3)～(5)は国補助事業]

(1) 悉皆調査 … 天然記念物のうちの巨樹等対象の現地調査4年目。筑波地区東部（筑波山・宝篋山を除く）についてNPO法人に委託して実施。例年同様に追加発見・要望があり134本〈108本〉を調査

(2) 遺跡の有無照会事務 … 文書照会：217カ所〈128カ所〉、窓口・電話・ファックス照会：2,241カ所〈1,963カ所〉

(3) 史跡現状変更等に伴う内容確認調査 … 0カ所0㎡〈0カ所〉

(4) 埋蔵文化財試掘・確認調査 … 27カ所1,630㎡〈29カ所1,335㎡〉

※貝塚・古墳以外は「遺跡・(館)跡」の表記省略。遺物の( )内は保管箱数

- ① 吉沼大坪館 … 土地売買、42㎡、4月。遺構：堀跡3条、土坑2基、遺物：土師器、須恵器、土師質土器、石製品(1)
- ② 小荃貝塚第5次 … 個人住宅、24㎡、4月。遺構：なし。遺物：縄文土器(0.1)
- ③ 島名関ノ台29号墳 … 土地売買・造成工事、24㎡、4月。遺構：木棺直葬と推定される粘土層。遺物：土師器、須恵器(0.2)
- ④ 苅間西ノ下 … 個人住宅、30㎡、4月。遺構：竪穴住居跡1軒。遺物：土師器(0.2)
- ⑤ 上ノ室ハマイバ第12次 … 集合住宅、98㎡、5・6月。遺構：竪穴住居跡5軒、溝跡2条、不明遺構2基。遺物：縄文土器、土師器、須恵器、陶器(1)
- ⑥ 若森谷津 … 個人住宅、9㎡、5月。遺構：なし。遺物：縄文土器(0.1)
- ⑦ 酒丸八ヶ代第3次 … 個人住宅、12㎡、5月。遺構・遺物：なし
- ⑧ 谷田部櫓下第3次 … 個人住宅、23㎡、6月。遺構：なし。遺物：土師器、須恵器、土師質土器(0.1)

- ⑨谷田部櫓下第4次 … 個人住宅、32㎡、7月。遺構：竪穴住居跡3軒。遺物：縄文土器、土師器、土師質土器（1）
- ⑩栗原古塚古墳 … 環境整備、13㎡、8月。遺構：石棺、古墳盛土、周溝。遺物：土師器、埴輪、石（1）
- ⑪下横場南の前 … 土地売買、157㎡、8月。遺構：なし。遺物：石器、土師器（0.1）
- ⑫上ノ室十枚 … 社会福祉施設、64㎡、9月。遺構：竪穴住居跡7軒。遺物：縄文土器、土師器、須恵器（1）
- ⑬前木館 … 宅地開発、205㎡、10月。遺構：竪穴遺構1基、溝跡2条、土坑2基ほか。遺物：土師器、土師質土器、石塔部材（2）
- ⑭大井 … 個人住宅、33㎡、10月。遺構：なし、遺物：土師器、須恵器（0.1）
- ⑮小野崎宿第2次 … 個人住宅、33㎡、11月。遺構：道路跡1条、溝跡5条。遺物：土師質土器、石塔部材（2）
- ⑯若森池西 … 太陽光、51㎡、11月。遺構：なし。遺物：縄文土器、土師器、須恵器、石器（0.1）
- ⑰大白畑 … 個人住宅、24㎡、11月。遺構：なし。遺物：縄文土器、土師器（0.2）
- ⑱佐鴻巣 … 個人住宅、28㎡、11月。遺構：竪穴住居跡3軒。遺物：縄文土器、土師器（0.2）
- ⑲上境旭台貝塚（さくらの森23-2） … 個人住宅、13㎡、12月。遺構：竪穴住居跡1軒、土坑5基、混貝土層ほか。遺物：縄文土器、土師器（0.2）
- ⑳上境旭台貝塚（さくらの森23-1） … 店舗兼住宅、13㎡、12月。遺構：土坑4基、混貝土層ほか。遺物：縄文土器、土師器（0.2）
- ㉑古館土墨公園 … 公園、54㎡、12月。遺構・遺物：なし。
- ㉒小野崎宿第3次 … 個人住宅、31㎡、1月。遺構：道路跡2条、溝跡4条、土坑1基。遺物：土師質土器（0.1）
- ㉓高見原第6次 … 個人住宅、46㎡、1月。遺構：なし。遺物：縄文土器（0.1）
- ㉔高見原第7次 … 土地売買、483㎡、1月。遺構：土坑2基。遺物：縄文土器（0.1）
- ㉕上ノ室城 … 個人住宅、32㎡、2月。遺構：竪穴住居跡2軒、土坑2基、ピット5基など。遺物：縄文土器、土師器、須恵器、陶器、鉄製品（0.2）
- ㉖上ノ室野中 … 個人住宅、30㎡、2月。遺構：土坑2基。遺物：縄文土器（0.2）
- ㉗小荃貝塚第6次 … 個人住宅、26㎡、3月。遺構：なし。遺物：縄文土器（0.1）
- (5)埋文本発掘調査 … 2カ所約220㎡〈2カ所約347㎡〉
- ㉘上境旭台貝塚（さくらの森23-2） … 個人住宅、89㎡、1～3月。遺構：竪穴住居跡2軒、土坑14基、ピット81基。遺物：縄文土器、土師器、須恵器、土製品、石器、骨角器、動物遺体（4）。
- ㉙上境旭台貝塚（さくらの森23-1） … 店舗兼住宅、131㎡、3月。遺構：竪穴住居跡1軒、土坑13基、ピット42基。遺物：縄文土器、石器、骨角器、動物遺体（3）

(6)市以外の調査者による埋文本発掘調査 … 2カ所約1,856㎡〈2カ所約599㎡〉

⑩島名関ノ台29号墳 … 造成工事、1,400㎡、7～10月。遺構：円墳1基。遺物：土製品、須恵器（1）

⑪寺具城 … 太陽光、456㎡、12～1月。遺構：溝跡8条、土塁4箇所、土坑1基。遺物：縄文土器、土師質土器、陶器、土製品（1）

### 3 文化財維持管理

(1)市文化財保存活用計画策定 … 策定懇話会5回、2/25教育委員会議決により策定

(2)管理・草刈委託 … 「五角堂」管理、「小田城跡」・「八幡塚古墳」他草刈り

(3)市所有・管理文化財修繕 … 「小田城跡」土塁工事、「下横場の大グミ」支柱設置

(4)説明板設置 … なし

(5)補助金交付

①市指定無形民俗文化財活動 … 「上境ひょつとこ」・「百家竜水万灯」

②国指定建造物 … 「大塚家住宅」（自火報点検）

③補修・管理 … 「筑波山神社神橋」修理（県市補助）。3年計画に修正し、繰越した平成29年度分及び30年度分工事を完了。令和元年10月完成予定

### 4 市史編纂

(1)史資料調査 …… 資料集掲載の古文書など

(2)印刷物刊行 …… 『つくば市史史料集 第十五編 旗本井上領・筑波山神領』

(3)史資料購入 …… なし

### 5 小田城跡〔(1)を除き国補助事業〕

(1)小田城跡保存整備委員会

①会議 … 委員会：1回。専門部会会議：2回

②内容 … 30年度分発掘調査、整備完了後の保存・活用についての指導・助言協議

(2)土地買収 … 本丸跡西側隣接地、管理区分D地区、2筆・453.29㎡（建築物、工作物移転有り）。B地区、1筆・295.05㎡（竹木等移転有り）。〈C地区、2筆・710.24㎡（工作物移転有り）。B地区、1筆・276.76㎡。〉

(3)調査その他

①遺構保全ゾーン確認調査 … 393㎡〈292㎡〉、10～1月。曲輪V北西部とその西側堀跡、これまで土地購入の関係で着手できなかった本丸北に位置する馬出状曲輪及び曲輪X東側の状況を確認した。

・曲輪V北西部では曲輪東端で南北方向、幅約10mの土塁跡を確認した。

・曲輪V西側堀跡は、東側（本丸側）と西側で、構造が大きく異なり、堀跡の拡張等が反映されていると考えられる。

- ・本丸北側の曲輪では、北端・西端・東端に土墨跡が存在し、馬出であったことが分かった。また土墨跡下層からは、火災の痕跡と見られる焼土や炭を多量に含む層を確認した。
  - ・曲輪X東側では曲輪の南端と東端で土墨跡が確認された。虎口跡の存在が想定されたが、後世に虎口部分が削平されたと考えられる。
- ②木製品保存処理 … 過去の小田城跡調査で出土した木製品について、恒久的保存・展示等活用を図るための保存処理（26～30年度の5か年計画で90点予定）と関連作業の委託。木製品等31点について、高級アルコール含浸の他、樹種同定、板状木製品の赤外線カメラ等による墨書有無確認を実施。
- ・漆器椀や曲物など、出土木製品5点のほか、種実、炭化塊などについて保存処理を行い、恒久的な保存を図ることができた。
  - ・史跡小田城跡の案内所で展示するなど、活用が可能になった。

## 6 文化財資料館（展示施設）維持管理

### (1) 桜歴史民俗資料館

- ①節電等配慮による開館日の週4日（月・火・金・土曜日。2日減）を継続。台風被害等による屋根の棟、倉庫ガラスの修繕、改修経年劣化により不具合が生じたエアコン、手洗所、誘導灯の修繕・改修
- ②区画整理事業に伴い用地2,008.00㎡を買収
- ③来館者数 … 7,809名〈3,204名〉※併設する市桜窓口センター来所者数からの推定

### (2) 出土文化財管理センター

- ①自動火災報知設備のバッテリー交換を実施
- ②来場者数 … 126名〈119名〉。

### (3) 平沢官衙遺跡歴史ひろば

- ①経年劣化によるトイレの便器・センサーライト・エアコンの不具合等を修繕
- ②来場者数（催事含む） … 46,508名〈52,478名〉

### (4) 小田城跡歴史ひろば

- ①穴が開いた南西虎口遺構レプリカを修繕
- ②来場者数（催事含む） … 21,204名〈17,479名〉

### (5) その他（①のカッコ内は小中学校、②は行政財産使用）

- ①文化財展示施設その他団体説明・講座等（件） …… 57(27)〈73(32)〉
- ②文化財展示施設その他所蔵資料利用許可申請（件） … 35〈56〉
- ③文化財展示施設その他利用許可申請（件） …… 21(4)〈21(9)〉

## 7 金田官衙遺跡土地買収

史跡内3筆を分散的に6,773.77㎡買収〈6,774.21㎡〉。累計44,446.13㎡、率61.1%

## 8 歴史文化教育・活用

### (1) 巡回企画展 … 「小田氏治と戦国時代の城館」

- ①小田城案内所10/3～12/6・1,916名、②谷田部資料館12/11～1/31・853名、合計2,769名。〈2,358名：小田、市役所、谷田部〉
- ②「氏治の居城 小田城跡親子発掘体験」11/3、3組6名〈史跡ウォーキング11/18・13名〉
- ③講演会「戦国領主小田氏治の系譜」糸賀茂男 常磐大学名誉教授、1/6（市役所会議室）・295名〈216名：市役所会議室〉

### (2) 文化財講座 …… 収集史料を使い前後期各1回開催。計55名参加〈48名〉。

### (3) 学校への歴史・文化教育の支援

- ①8月に学校教諭を対象研修を計画したが、台風のため中止〈1回、40名〉。
- ②出前授業を高1校・小4校514名〈同1・3・488〉（各種団体7・245名）〈8・129〉に実施
- ③一般向けも兼ねた学校授業用の「つくば市の歴史年表と文化財展示施設」パンフレット（15,000部）を増刷
- ④自由研究相談室 8/21（火）、22（水）、8件

### (4) 平沢官衙遺跡歴史ひろば催事

- ①立体復元建物特別開扉 … 5/3（木）・4日（金）予定で、雨天のため4日のみ実施：250名〈2日1,389名〉
- ②夏のライトアップ … 8/18（土）：500名〈250名〉
- ③つくば物語 … 10/28（日）：5,000名〈800名〉屋外で木村大・山本恭司演奏会他、
- ④春の芝文字 … 1/26（土）：90名〈70名〉
- ⑤ちびっこ博士 … 7/21～8/31：3,489名、〈4,013名〉。7/21（土）、8/11（土）・18（土）に復元建物特別公開
- ⑥一般・学校での見学の他、青年会議所主催のツールドつくば〔6/17（日）〕出発地点として開催予定であったが、雨のため中止

### (5) 小田城跡歴史ひろば催事

#### ◎主催事業

- ①ちびっこ博士 … 7/21～8/31：3,934名〈3,448名〉
- ②「氏治の居城 小田城跡親子発掘体験」11/3、3組6名〈史跡ウォーキング11/18・13名〉
- ③発掘調査現地説明会 … 12/1（土）。161名。〈102名〉。最終回

#### ◎共催事業

- ④小田城写真展：共催（常陸小田城親衛隊の会）… 4/28～5/31。1,968名〈1,747名〉
- ⑤宝篋山トレッキングスタンプラリー：外部（NPO法人小田地域振興協議会）・小田城跡の解説：主催 … 5/19（土）

⑥常世の國まつり：外部（常世の國まつり実行委員会）・庭園ライトアップ：主催 …  
8/11(土)。約2,000名〈約1,500名〉

⑦小田大護摩法要：外部（小田大護摩法要実行委員会）・小田城秋の陣2018：主催 …  
10/27（土）。護摩法要・舞台イベントなど。約700名

⑧どんど焼き：外部（どんど焼き実行委員会）・小田城冬の陣2019：主催 … 1/19  
（土）。2,800名〈約2,000名〉。どんど焼き・舞台イベントや遊びのスペース

(6)その他

①ちびっこ博士 … 7/21～8/31、桜歴史民俗資料館、4,696名  
谷田部郷土資料館、3,445名

②小田城跡歴史ひろばパンフレット（50,000部）増刷

# 令和元年度主要事業計画概要

## 1 当初予算（単位：千円）

### (1) 歳出

予算事業名	元年度予算	30年度予算	比較増減額	増減率
経常的経費	82,213	142,401	△60,188	△42.3%
①文化財保護審議会	228	228	0	0.0%
②文化財調査	7,838	6,867	971	14.1%
③文化財維持管理	8,756	19,483	△10,727	△55.1%
⑥文化財展示施設管理	59,295	111,818	△52,523	△47.0%
⑧歴史文化教育・活用	6,096	4,005	2,091	52.2%
臨時的経費	231,762	204,198	27,564	13.5%
④市史編纂	3,474	3,476	△2	△0.1%
⑤小田城跡	35,192	7,183	28,009	389.9%
⑦金田官衙遺跡	193,096	193,539	△443	△0.2%
合計	313,975	346,599	△32,624	△9.4%

※ア) H30から国補事業を除く臨時職員賃金は人事課所管となったため、R1予算書上では④で2,788千円、⑥で4,729千円の計7,517千円（昨年度同額）が所管外となり文化財保護費の合計額は306,458千円。

イ) 主な増減説明 … ③筑波山神社神橋補助金額減、⑤土地公有化増、⑥桜歴史民俗資料館土地購入減・植栽管理費単価増

### (2) 歳入

財源名	元年度予算	30年度予算	比較増減額	増減率
①国県補助	186,059	161,745	24,314	15.0%
②地方債	34,700	29,000	5,700	19.7%
③その他特別財源	406	430	△24	△5.6%
④一般財源	92,810	155,424	△62,614	△40.3%
合計	313,975	346,599	△32,624	△9.4%

※ア) 予算書上の一般財源は歳出の人事課所管臨時職員賃金を除く85,293千円。

※イ) 主な増減説明 … ①小田城土地買収国補計上、②金田土地公有化起債率上昇

## 2 事業毎の主な内容（下線付きは新規・拡充・内容変更事業その他）

〔文化財保護費〕

- (1) 文化財保護審議会 … つくば市文化財行政全般への指導助言  
○課題 … ①文化財保存活用計画の進捗管理・評価。
- (2) 文化財調査 …… 悉皆調査（自然）筑波山等詳細調査、埋蔵文化財調査。  
○課題 … ①自然文化財調査後の計画。
- (3) 文化財維持管理 …… 史跡等草刈、五角堂管理委託、指定文化財修繕・活用補助、筑波山神社神橋修理他。  
○課題 … ①要修理案件の年次計画の検討。
- (4) 市史編纂 …… 個人蔵その他の古文書類調査。史料集刊行：古文書。  
○課題 … ①古文書解読に当たられる先生の高齢による後継者育成→今年度近世文献資料の専門職採用  
②史料集の継続と通史編の検討。
- (5) 小田城跡
  - ①保存整備委員会 …… 保存活用事業への指導助言。
  - ②土地買収 …… 整備をした遺構復元ひろば北側の水田2,126㎡を予定。
  - ③調査 …… 現地は昨年度で終了。整理調査を実施。  
○課題 … 終了後の展開をどうするか。
- (6) 文化財展示施設管理
  - ①文化財展示施設4館（桜資料館、出土センター、平沢官衙、小田城跡）の施設管理
  - ②収蔵品の整理・管理
  - ③廃校を利用した保管・展示施設の確保  
○課題 … 法令の確認や住民意見との調整。
  - ④平沢官衙遺跡老朽化に伴う再整備事業  
○課題 … 数年先の着手へ向け来年度の保存活用計画策定を準備。
- (7) 金田官衙遺跡 …… 史跡東部2筆6,500.04㎡買収。3筆1,285.48㎡追加指定。
- (8) 歴史文化教育・活用
  - ①巡回企画展
    - ・巡回企画展「(仮称)万葉の時代のつくば」、小田城跡歴史ひろば、谷田部郷土資料館などで実施。講演会、体験学習も実施。
  - ②伝統文化教育学校支援事業
    - ・提供、活用できる資料（リーフレット、ホームページその他）の作成。
    - ・資料に基づく学校教諭を対象とした本市の歴史や文化財の説明8/5(月)(研修)。
    - ・出前講座、文化財施設説明、データ配布等による資料提供。
    - ・自由研究相談室：8/7(水)、8/8(木)に市役所会議室で実施。

③平沢官衙遺跡歴史ひろば催事

- ・春の特別開扉〔5/3(金)・4(土)・5日(日)〕、夏のライトアップ〔8/17(土)〕、秋のミニコンサート〔10/26(土)〕、新春芝文字と文化財防火訓練(1月)。※つくば物語は中止

④小田城跡歴史ひろば催事

- ・小田城写真展〔4/27(土)～5/30(木)〕。-みんなで創る光の城-キャンドルナイト in小田城跡〔5/19(日)〕。小田大護摩法要と小田城秋の陣2019〔10/19(土)〕。第32回どんど焼きと小田城冬の陣2020〔1月〕。

⑤ちびっこ博士

- ・平沢官衙・小田城跡・桜歴史民俗資料館・谷田部郷土資料館で実施。平沢官衙で7/20(土)、8/10(土)、8/17(土)に復元建物を解説。谷田部郷土資料館でも8/4(日)、8/18(日)の2回、伊賀七の発明品など解説実施。

⑥サイエンスラボ

- ・平成20年度から11年ぶりに連携。勾玉作り、土器洗浄、拓本を実施。約30名予定。

⑦文化財サポーター事業

- ・年度前半で制度を検討し、後半で施設等解説ボランティアの養成講座を実施。

## 資料2

### 指定文化財修理等



平成30年10月撮影



平成31年2月撮影

県指定天然記念物「下横場の大グミ」：平成30年10月1日の台風で東側幹が折損。平成31年2月に支柱による補強と周囲の雑木の剪定を行った。



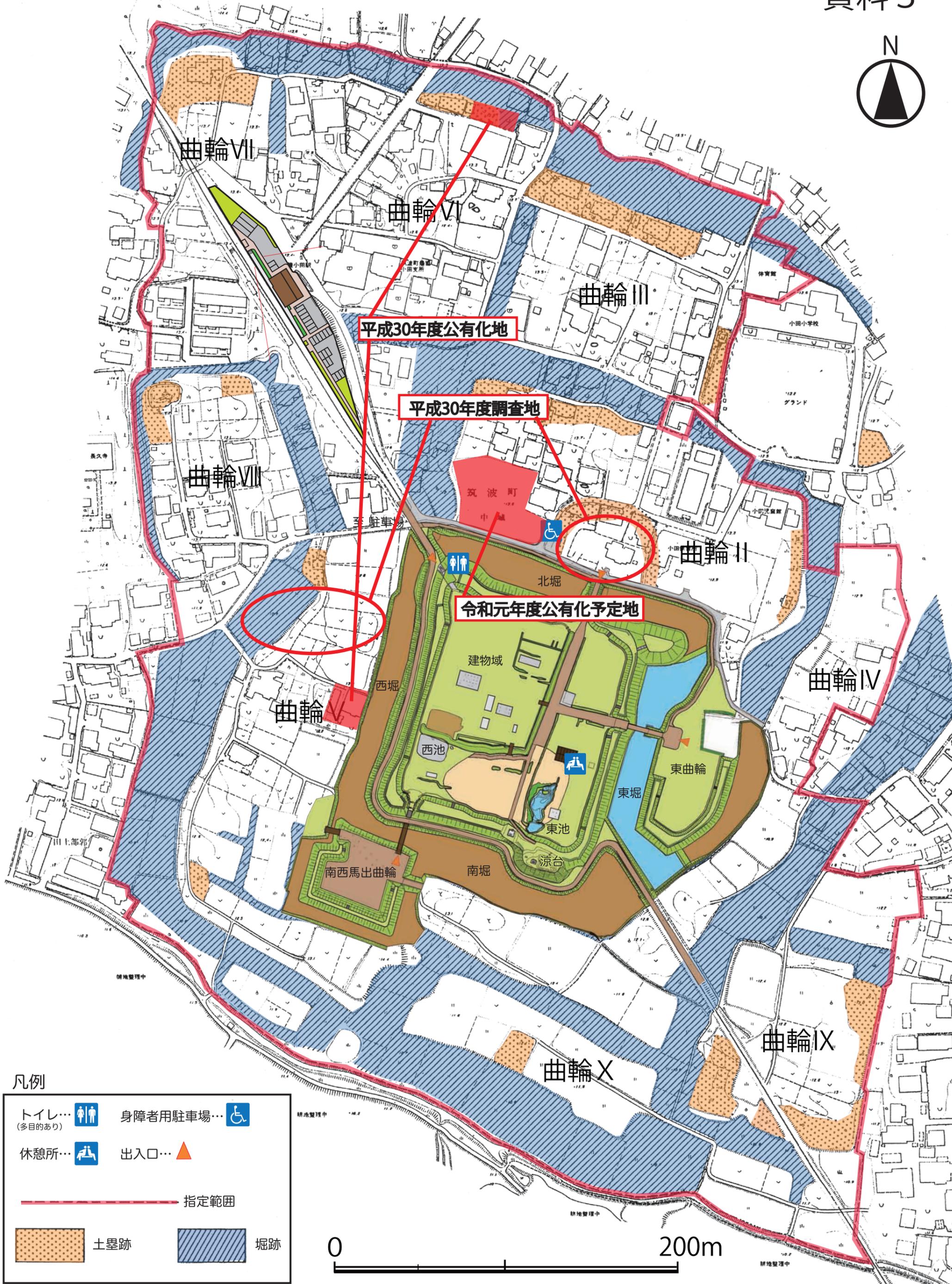
令和元年6月撮影



平成23年5月撮影



市指定文化財「薬師堂」：以前からあった向拝柱の傾斜が進行していることを令和元年6月に確認。対応について管理者と協議中。垂木等の材の傷みも激しい。正面左手の組物と柱は、ホゾが折損して外れつつある。



平成30年度公有化地

平成30年度調査地

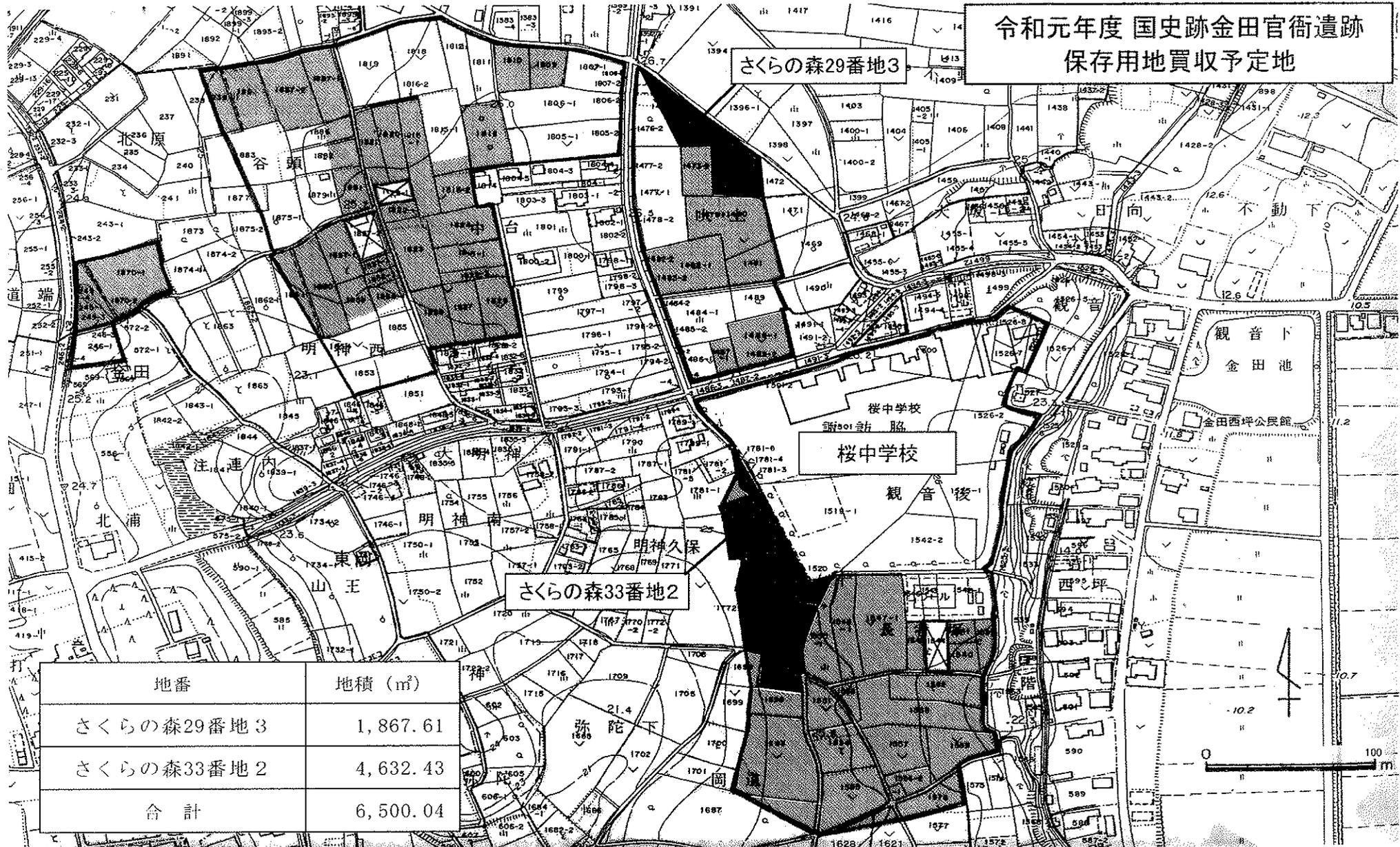
令和元年度公有化予定地

凡例

トイレ… (多目的あり)		身障者用駐車場…	
休憩所…		出入口…	
		指定範囲	
	土塁跡		堀跡



令和元年度 国史跡金田官衙遺跡  
保存用地買収予定地



地番	地積 (㎡)
さくらの森29番地3	1,867.61
さくらの森33番地2	4,632.43
合計	6,500.04

令和元年度買収予定地

平成30年度までの買収地

太線：史跡指定範囲

## 資料5

### 歴史文化教育・活用事業



小田大護摩法要と小田城秋の陣2018  
護摩法要の状況



講演会「戦国領主小田氏治の系譜」  
会場の状況



平沢官衙遺跡  
春の芝文字  
芝文字完成と太鼓演奏状況

# 文化財サポーター事業について

## 1 目的

市民等が、市が実施する文化財関係業務に幅広く参画することで、市の歴史や文化財、文化財保存活用施策を知り、文化財保護への理解を深める機会とする。

## 2 概要

市文化財課を事務局とし、登録した市民等を会員として、会員に対して市の歴史や文化財、文化財関係事業について情報発信するとともに、会員から市事業に参画するボランティアを募る。

## 3 会員について

- (1) つくば市の歴史や文化財に関心がある方。
  - (2) 会の目的に賛同できる方。
  - (3) 文化財の調査・保存・活用事業にボランティアとして参加する意思がある方。
- ※ 会費は徴収しない

## 4 会員に対する事業の内容

- (1) 各種事業でのボランティア募集の情報（随時）
- (2) 展示解説等の専門的知見を有する事業でのボランティア養成講座の開催
- (3) 解説ボランティアステップアップのための研修会の案内
- (4) 文化財情報をまとめた「〇〇通信」の定期的な発刊・配布

## 5 会員が参加するボランティアの内容

- (1) 展示施設の解説（当面は学校見学の多い桜・谷田部を中心とし、課員＋ボランティアの構成で行う）
- (2) 団体等の文化財解説依頼への対応（経験を積んでからとする。また、小田城跡等の既存団体があるところは既存団体に任せる）
- (3) 講演会等のイベント補助
- (4) 文化財の美化活動兼見廻り兼見学（課員が解説をしながら定期的実施）
- (5) 事務局への参画（ボランティアの配分、「〇〇通信」の作成・発送等）

(6) ワークショップ形式による展示立案や計画策定、作業

(7) その他、市の各種事業

※ 展示解説等の市から依頼する業務は有償、美化等の自由参加できるものは無償を基本とする。

## 6 組織のあり方

### 案①「ボランティアの会形式」

- ・後述の養成講座を受けた解説ボランティアができる会員を主に構成。
- ・少人数であるため、連絡がとりやすく実務的。
- ・少数精鋭にしすぎることは、目的がボランティアを労力の足しにすることではなく、市民の参画と市民への情報発信により文化財の理解を深めることにあることから、趣旨と外れる。

### 案②「友の会形式」

- ・解説ボランティアの可否に関わらず、文化財に関心のある会員を募って構成。
- ・案1よりも多くの会員に対して、事業参画の機会や情報を提供できる。
- ・ボランティア等への参加者は、多くの会員の中から業務内容に応じて募る。
- ・会員が多数となった場合、情報発信等を電子メールの一斉送信に限れば対応できるが、会員は60才以上が主と見込まれ郵送は避けられず、労力と費用の負担が大きい。

※ 理想は案②の多数の会員の中に、案①の中核となる会員を作ること。案①でスタートし、事務局作業への参加の目途を立ててから、案②の会員を募集していくことが最良か。

## 7 解説ボランティア養成講座

### (1) 目的と概要

ボランティアが参画できる業務には、美化や見廻り・イベント補助等、熱意があれば知識を要しないものと、解説のように知識を要するものがある。解説は学校見学への対応が最も多く、内容に大きな差があることは望ましくない。

そのため、解説ボランティアについては「谷田部郷土資料館」、「桜歴史民俗

資料館」、「〇〇地区の文化財」等に区分し、養成講座を受けて簡単な解説実演によるテストを経て免許皆伝とする。受講者にとって、いくつもの免許を皆伝されることが、意欲につながる可能性もある。

## (2) 第1回解説ボランティア養成講座について

### ①目的

学校からの安定した解説要望がある谷田部郷土資料館、桜歴史民俗資料館の解説ボランティアを養成する。

### ②日時（予定）

令和元年（2019年）11月～1月、全6回、隔週で2時間程度

### ③会場・内容（予定）

- 1回 つくばの歴史の概略、歴史の調べ方の基礎（座学）：市役所
  - 2回 つくば市の文化財探訪（バス移動）：市役所～各地
  - 3回 谷田部の歴史と文化財（座学）、谷田部郷土資料館見学：谷田部交流センター
  - 4回 谷田部郷土資料館解説の実地練習：谷田部交流センター
  - 5回 桜の歴史と文化財（座学）、桜歴史民俗資料館見学：桜体育館会議室
  - 6回 桜歴史民俗資料館解説の実地練習：桜体育館会議室
- 谷田部・桜資料館の解説ボランティアとしての免許皆伝

## (3) 今後の養成講座について

- ・ 谷田部・桜については基礎的な講座として毎年1回開催。
- ・ そのほか、免許皆伝されたボランティア登録者向けに「筑波」「大穂・豊里」「荃崎」「学園地区」等の研修会を随時企画・追加して、様々なニーズにあった解説ができるボランティアを育てる。

## 資料 7

### つくば市文化財保存活用計画掲載事業の進捗管理・評価について

#### 1 趣旨

つくば市文化財保存活用計画では、計画の進捗管理・評価を市事務事業評価制度と関連させること、審議会に進捗・評価を報告し指導・助言を頂くことを記載している。市事務事業評価制度と審議会での指導・助言との関係を整理したい。

#### 2 市事務事業評価

- 市の全事務事業について年度当初に各課で計画し、各課作成の調書により自課（1次）・庁内（2次）で中間評価評価・年度末評価を実施する。
- 主要な事務事業（各課5事業程度）の調書は、外部委員で構成される市行政経営懇談会による市事業の総合的な評価の資料となり、その評価結果は市長に報告される。

#### 3 市事務事業評価と市文化財保護審議会での指導・助言との関係

- 文化財保護審議会では、保存活用計画にある指導・助言の記載と同じく、文化財課全事業について、これまでも指導・助言を頂いてきた。
- 今年度から事務事業名・内容を、保存活用計画の施策との対応がわかりやすいように整理した。事務事業評価の調書が、保存活用計画の施策を点検・評価する調書ともなりえる。
- 審議会による指導・助言と比べて、行政経営懇談会の評価は、全事業に対してではないこと、専門的見地からの評価では無いことが異なる。
- 当初の考えでは、事務事業評価と審議会の指導・助言を対等に位置付け、市が結論とした2次評価後の事務事業評価調書について、専門的見地からの指導・助言を審議会が担うことを意図した（裏面①）。
- もう一つの考え方として、事務事業評価の調書に、まず審議会の意見を反映させていく方法もありえる（裏面②）。ただし、審議会の意見は自課による1次評価を対象に庁内での2次評価までに反映させる必要があり、2次評価以降で審議会の意見が変更されることもありえる点で、本来的ではない。

## 事務事業評価日程と審議会開催時期との関係

時期	市事務事業評価	審議会の指導・助言①	審議会の指導・助言②
当該年度	4月下旬	自課での計画(前年度1次年度末評価調書と同時)	
			自課計画案への意見
	5月下旬	計画(前年度2次年度末評価と同時、計画確定)	
	6月上旬	計画訂正(前年度2次年度末評価調書訂正と同時)	
			確定した計画への意見
	10月上旬	中間評価(1次)	
			1次中間評価への意見
	10月中旬	中間評価(2次)	
	11月下旬	中間評価訂正提出	
			2次中間評価への意見
翌年度	4月下旬	年度末評価(1次)	
			1次年度末評価への意見
	5月下旬	年度末評価(2次)	
	6月上旬	年度末評価後訂正(2次)	
			2次年度末評価への意見
	7月下旬～ 9月下旬	行政経営懇談会分科会ヒアリング・評価	
	10月下旬	行政経営懇談会全体会・評価決定	
	11月下旬	行政経営懇談会から市長への報告会	

市の予算・事務事業と『文化財保存活用計画』内の各種事業対応表

基本施策	施策	現在の市の予算事業	H30まで市の事務事業	R1から市の事務事業
1 文化財の現状や価値を正確に把握する	1 各種文化財調査事業	12 文化財調査	12 文化財調査	12 01 各種文化財基本調査
	2 埋蔵文化財調査事業	12 文化財調査	12 文化財調査	12 02 埋蔵文化財調査・保存
		15 小田城跡	15 03 小田城跡確認調査	15 04 小田城跡確認調査
	3 文化財現況確認事業	12 文化財調査	- -	12 01 各種文化財基本調査
	4 市史編纂事業	14 市史編纂	14 市史編纂	14 市史編纂
2 文化財を適切に後世に伝える	1 各種文化財保存事業	11 文化財保護審議会	11 文化財保護審議会	11 文化財保護審議会
		13 文化財維持管理	01 市管理文化財維持管理	13 01 市管理文化財維持管理
			03 文化財保護計画策定	- -
	2 史跡保存事業	15 小田城跡	01 小田城跡保存	01 小田城跡保存
			02 小田城跡保存整備委員会	02 小田城跡保存整備委員会
		17 金田官衙遺跡	17 金田官衙遺跡保存・活用	17 金田官衙遺跡保存・活用
	3 埋蔵文化財保存事業	12 文化財調査	12 文化財調査	12 02 埋蔵文化財調査・保存
	4 私有文化財保存事業	13 文化財維持管理	13 02 私有文化財補助	13 02 私有文化財補助
3 文化財を市民のために活用する	1 文化財普及・周知事業	16 文化財展示施設管理	16 文化財展示施設管理	16 文化財展示施設管理
		18 歴史文化教育・活用	18 02 文化財展示講座等	18 02 文化財展示講座等
	2 学校での伝統文化教育支援事業	18 歴史文化教育・活用	18 01 学校での伝統文化教育支援	18 01 学校での伝統文化教育支援
	3 文化財サポーター事業	18 歴史文化教育・活用	- -	18 03 文化財サポーター
4 文化財施設管理事業	16 文化財展示施設管理	16 文化財展示施設管理	16 文化財展示施設管理	

施策の内容と着手時期

基本 施策	施策	継続する取組み	新規開始・充実・強化を図る取組み		
			早期（2021年度頃までに着手）	中期（2024年度頃までに着手）	後期（2025年度以降に着手）
1 文化財の現状や価値を 正確に把握する	1-1 各種文化財基本調査事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>悉皆調査</li> <li>調査成果の報告書・パンフレット等による市民向けの情報発信</li> </ul>	市内の大学・研究機関との連携をより密にする	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来対象になりにくかった文化財や歴史を調査</li> <li>既存調査成果活用を図る整理・データベース化</li> </ul>	
	1-2 埋蔵文化財調査事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発等対応の調整・調査業務</li> <li>業務の効率化・体制整備を検討</li> </ul>	史跡周辺埋蔵文化財の内容確認調査	膨大な調査資料の活用に向けた分析	
	1-3 文化財現況確認事業	茨城県文化財保護指導委員との文化財巡視		文化財サポーターによる見廻り隊を結成	
	1-4 市史編纂事業	市史編纂の基礎となる史・資料調査	史・資料調査結果を保存・活用に活かす	史・資料調査結果に応じて『通史編』刊行を検討	
2 文化財を適切に後世に伝える	2-1 各種文化財保存事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定名称の見直し</li> <li>文化財の適切な維持・修理</li> <li>復元や案内板・説明版の設置等の環境整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種文化財成果をもとに重要物件を指定制度・認定制度等での積極的な保護を検討</li> <li>市指定・認定基準を早期に検討し制度を円滑に活用</li> <li>文化財台帳内容の改正</li> <li>市内の研究所・機関と保存科学分野での連携</li> </ul>	文化財台帳デジタル化の検討	
	2-2 史跡保存事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>小田城跡の保存上必要な土地の公有化</li> <li>金田官衙遺跡の保存上必要な土地買収</li> </ul>		金田官衙遺跡保存活用計画策定を検討	
	2-3 埋蔵文化財保存事業	開発等手続きの徹底化	遺跡地図の改訂版作成		
	2-4 民間所有文化財支援事業	所有者等による修理・保存事業に対する助言・補助金等の支援		所有管理者・保存活用団体への支援強化検討	
3 文化財を市民のために活用する	3-1 文化財普及・周知事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回企画展・講演会等の実施</li> <li>各種講座や講演会等の開催</li> <li>歴史ひろばで定期的にイベントを開催・地域振興の拠点として活用</li> <li>パンフレット等資料作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発掘現場見学・体験学習・民間所有文化財公開等の実施</li> <li>市ウェブページを更新して周知</li> <li>文化財展示施設の活用施策充実</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>展示施設のあり方を多角的に調査</li> <li>統一的文化財施設や展示施設の統廃合等の要否の方針検討</li> </ul>
	3-2 学校での伝統文化教育支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくばスタイル科等授業での施設解説や出前講座の実施・教育研究会社会科研究部「ちびっ子博士事業」との連携を推進</li> <li>夏休みに研究所等のスタンプラリーを行うちびっ子博士事業との連携、社会科教育研究会と連携した教員向け研修を実施</li> <li>子ども向け資料作成・社会科副読本協力</li> </ul>	大学・高校と連携し、大学生・高校生が海外留学生や小・中学生への解説を担い、両者共に歴史や文化財への理解を深める事業を検討する		
	3-3 文化財サポーター事業	ボランティア・市民団体と連携した事業を拡大・実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財サポーター育成講座の開催</li> <li>ボランティアによる民具の使い方実演や戦争・学園都市建設前後の体験談等の学校教育支援等プログラム化検討</li> <li>集落祭礼活性化を検討</li> </ul>	文化財サポーターによる文化財解説・イベント補助・展示作成等の活動を検討	
	3-4 文化財展示施設管理事業	施設の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保管施設を廃校利用を視野に入れ早急に確保</li> <li>平沢官衙遺跡保存活用計画策定及び事業着手</li> </ul>		



	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成29年度 (決算)	平成30年度 (決算)	令和1年度 (当初)	令和2年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 2,666	2,707	3,290	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 0	0	0	0
	一般財源	(千円) 3,876	4,151	4,548	0
事業費計		(千円) 6,542	6,858	7,838	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人) 0.90	1.30		
	時間外勤務	(時間) 650.00	550.00		
	臨時職員等	(有無) 有	有		
人件費		(千円) 8,037	10,541		
事業コスト		(千円) 14,579	17,399		

R01年度当初積算根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時職員賃金 5,477千円</li> <li>・指導謝礼 20千円</li> <li>・普通旅費 8千円</li> <li>・需用費 604千円 (消耗品費 118千円、燃料費 3千円、写真現像代 3千円、報告書印刷代 480千円)</li> <li>・汲取手数料 10千円</li> <li>・委託料 707千円 (出土品等分析 107千円、天然記念物悉皆調査 600千円)</li> <li>・使用料及び賃借料 (重機・調査機材) 945千円</li> <li>・埋戻し用原材料費 5千円</li> <li>・備品購入費 (刈払機) 62千円</li> </ul>
	※歳入 国庫補助金 3,290千円 (埋蔵文化財発掘調査等事業・対象経費の1/2)

予算の方向性	理由	H31年2月に策定した「つくば市文化財保存活用計画」の事業区分との対比を明確にするため、2つの新規事業 (981各種文化財基本調査事業・982埋蔵文化財調査・保存事業) に分割する。
終了		

方向性

市民ニーズ	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	3	やや遅れたが、今年度の実施計画を達成した。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与		今年度で事業が終了する。
行政が関与する必要性について		
優先度		法令等により、市の実施が定められている。又は、今年度で事業が終了する。
事業の優先度かどうか		

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報								
事務事業名	863 文化財展示施設管理事業							
戦略プラン					担当部課	教育局文化財課		
総合戦略					係名	活用係		
					新規・継続	継続		
					事業分類	任意的事務		
予算科目	01-100503-16 文化財展示施設管理に要する経費							
要求区分		事業期間			市民参加	<input type="checkbox"/> 共有、理解		
個別計画						<input type="checkbox"/> 企画・立案、計画		
						<input type="checkbox"/> 実行		
根拠法令	つくば市文化財展示施設条例及び同条例施行規則				事業体制	一部委託		
					市長公約			
概要								
事業の目的				事業の概要				
市内から出土した文化財、史料及び民俗資料を中心とした資料の収集・整理並びに復元整備した史跡の保存と展示を行う、つくば市文化財展示施設等（桜歴史民俗資料館、出土文化財管理センター、平沢官衙遺跡歴史ひろば、谷田部郷土資料館）の収蔵資料や施設の維持管理を目的とする。				・収蔵資料を適切に管理し、貸出等の利用手続きを申請に応じて適宜行う。 ・施設の維持管理のため諸法令に定められた業務、植栽や設備の維持管理、機械警備、収蔵資料の燻蒸処理等の業務を専門業者に委託して実施し、施設を常に適切かつ良好な状態に保つ。 ※桜歴史民俗資料館には、桜窓口センターが含まれる。				
評価								
事業計画				活動実績				
・収蔵資料及び施設や設備を適切かつ良好な状態に保ち、不具合が生じた際は適宜修繕等を行う。 ・収蔵資料の貸出・閲覧等の利用、資料の写真掲載等の利用により、資料等を教育・研究に有効活用する。 ・個人から借地をしてきた桜歴史民俗資料館敷地の一部2,008.95㎡の所有者が区画整理事業終了によりURとなることから、底地確保のため30年度前半に購入する。 ・つくば市公共施設自主点検マニュアルを運用する。				・施設設備では、平沢官衙遺跡案内所男性用トイレ用便器修繕・センサーライト修繕、桜歴史民俗資料館の倉庫ガラス修繕・エアコン修繕・屋根棟修繕・手洗所修繕・誘導灯改修・トイレ改修を行った。 ・収蔵資料の貸出・閲覧等の利用、資料の写真掲載等の利用は35件あった。 ・7月1日 桜歴史民俗資料館用地2,008.95㎡を購入した。 ・つくば市公共施設自主点検マニュアルを運用し、施設を維持管理した。				
成果				課題				
収蔵資料及び施設を良好な状態に保つとともに、資料貸出業務を通じて市外の方々につくば市の歴史と文化への知識と理解を深めてもらい、あわせて学術の発展に資することができた。 小田城跡歴史ひろばも、様々な年代の方々に利用していただき、さらに広く認識されてきた。				『文化財保存活用計画』策定とあわせて検討する予定であった施設の修繕計画について、詳細な検討に至らなかった。				
改善目標（R01年度において）								
引き続き、市公共マネジメント及び『文化財保存活用計画』と連動させながら施設修繕計画を検討する。								
指標の推移								
1	指標名	収蔵資料利用件数					( 件 )	活動指標
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	45.0	50.0
	実績	30.0	32.0	41.0	56.0	35.0	0.0	0.0
	指標の概要	収蔵資料の閲覧・写真撮影複写・掲載及び貸出等の利用件数						
2	指標名						( )	
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移						
項目			平成29年度 (決算)	平成30年度 (決算)	令和1年度 (当初)	令和2年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円)	0	0	0	0
	県支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	その他	(千円)	35	74	54	0
	一般財源	(千円)	38,348	103,693	54,512	0
事業費計		(千円)	38,383	103,767	54,566	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	0.50	0.70		
	時間外勤務	(時間)	150.00	265.00		
	臨時職員等	(有無)	有	有		
人件費		(千円)	3,933	5,598		
事業コスト		(千円)	42,316	109,365		

R01年度当初積算根拠

- ・需用費 5,019千円 (消耗品 303千円、光熱水費 3,358千円、修繕料 1,358千円)
- ・役務費 596千円 (通信運搬費 232千円、保険料 313千円他)
- ・委託料 48,553千円 (小田城植栽維持管理 32,232千円、平沢他植栽維持管理 8,522千円、平沢・桜案内清掃 3,151千円他)
- ・使用料及び賃借料 383千円 (平沢土地 149千円、複写機 234千円)
- ・負担金補助及び交付金 15千円
- ※歳入 その他特財 54千円 (行政財産使用料 30千円、自販機他電気料 24千円)
- ※臨時職員賃金4,391千円は人事課令達

予算の方向性	理由	植栽等維持管理委託料の大幅な増額が避けられないため。
拡充		

方向性		
市民ニーズ	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	3	やや遅れたが、今年度の実施計画を達成した。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		



	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目			平成29年度 (決算)	平成30年度 (決算)	令和1年度 (当初)	令和2年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円)	1,000	1,000	2,162	0
	県支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	その他	(千円)	136	159	116	0
	一般財源	(千円)	2,197	2,601	3,609	0
事業費計		(千円)	3,333	3,760	5,887	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	0.30	0.70		
	時間外勤務	(時間)	300.00	350.00		
	臨時職員等	(有無)	有	有		
人件費		(千円)	2,890	5,809		
事業コスト		(千円)	6,223	9,569		

- R01年度当初積算根拠
- ・臨時職員賃金 1,760千円(資料作成補助等)
  - ・報償費 181千円(講師謝礼 142千円、ボランティア謝礼 39千円)
  - ・需用費 2,645千円(消耗品費 73千円、展示パンフレット等印刷 486千円、遺跡地図印刷1,859千円)
  - ・役務費 175千円(郵便料 25千円、運搬等手数料 150千円)
  - ・委託料 1,300千円(催事委託・平沢 650千円、小田 650千円)
  - ・賃借料 35千円(展示品運搬用自動車賃借)
- ※歳入  
国庫補助金 2,162千円(埋蔵文化財活用事業・対象経費の1/2)  
文化財講座受講料 116千円

予算の方向性		展示解説資料として遺跡地図を刊行するため。
拡充	理由	

方向性

市民ニーズ	5	十分に高く、今後も増加が見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		

会 議 録

会議の名称		令和元年度第2回文化財保護審議会		
開催日時		令和2年（2020年）2月10日 開会10:00 閉会12:00		
開催場所		市役所コミュニティ棟3階会議室A		
事務局（担当課）		教育局文化財課		
出席者	委員	藤川昌樹会長、田中ひとみ副会長、大関武委員、 岡野一穂委員、徳丸亞木委員、中村幸雄委員、 橋本喜美子委員		
	その他			
	事務局	森田教育長、吉沼教育局長、美野本文化財課課長、石橋文化財課課長補佐、広瀬文化財課活用係長		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0名
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 令和元年度主要事業の報告 (2) つくば市文化財保存活用計画の進捗評価について (3) その他 ・下岩崎観音堂について ・小田解脱寺について		
会議録署名人		広瀬 季一郎	確定年月日	
会 議 次 第	1 開会・挨拶 2 議事 3 閉会			

<審議内容>

事務局：皆様おはようございます。定刻となりましたので、令和元年度第2回つくば市文化財保護審議会を開催させていただきます。今日は、AIによる議事録の作成を試みているので、御発言の時にマイクを手にしていただくようよろしくお願いいたします。では初めに森田教育長から御挨拶申し上げます。

教育長：皆さんおはようございます。12月25日に門脇教育長の後を引き継いで、教育長に就任しました森田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私、はもともと教員であったわけですがけれども、県の教育委員会で仕事をした後、こちらでお世話になりこのような形でまたお世話になるということで、皆様にはこれからよろしくお願いいたします。

改めまして、皆様にはお忙しいところ第2回目の文化財保護審議会にお集まりをいただきましてありがとうございました。文化財保護審議会の皆様の中には文化財保存活用計画の策定にも御尽力いただいた方もいらっしゃるわけですがけれども、今年度からこの文化財保存活用計画に基づく施策が始まるということで、今回は、それに基づいた進捗状況の評価ということになるかと思えます。計画の進捗評価をどのように行って今後の事業に生かしていくかという、まだ手探りの状態でございますけれども、皆様からの専門的な見地で御意見を賜ればと思っておりますので、忌憚のない御意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

局長：皆様はじめましての方が多いと思えます。12月25日付けで教育局長を拝命しました吉沼と申します。2回目の審議会ということですが、私としては今回初めての参加ということになりますので、引き続き御指導をいただきながら一生懸命勉強させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。円滑な進行よろしくお願いいたします。

事務局：それでは会長から御挨拶をよろしくお願いいたします、

会長：皆さんおはようございます。今年度も2回目で年度末になっておりますが、お手元にあります事務事業マネジメントシートという形で、昨年度策定した保存活用計画の進行管理をしていくのが、この委員会の役目としても求められるようになってきております。こうして書いてみるとずいぶん多くのことを市の皆さんがやって下さっている事がわかりますけれども、我々がそれを応援するような形で少しずつ進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：ありがとうございました。では早速ですが議事に入らせていただきたいと思っております。議長につきましては、つくば市文化財保護審議会条例の第7条第2項により、会長である藤川先生にお願いいたします。

会長：はい分かりました。それでは始めさせていただきます。今日は議事が3つ用意されていますけれども、まず最初に令和元年度主要事業の報告について事務局から説明をお願いします。

事務局：主要事業のうち、保存事業について資料に基づき説明。

追加があれば、お願いできますか。

副会長：巨樹の悉皆調査を行いました。当初予定の年数をちょっと延ばしていただいて全部終わりました。ただし筑波山・宝篋山に関しては、登山道沿いにあるものだけということで調査させていただきましたので、山の中にはまだまだたくさんあるかと思っておりますが、市民の皆さんの目に触れるところというところで、登山道沿いだけを調査させていただいて、それでも今回、50本ぐらいかと思っていたところ結構ありまして、73本調査させていただいたという状況になっています。全体では全地区合わせて496件となりました。ただし、これが始まったのがもう5年以上前になりますので、いくつかもなくなったものもあるという情報も既にわかっています。今この中からいいものや希少なもの、大きなものを選んで100本ということで、全体の報告書をまとめているところですが、正式に公開するときには、そういう意味でもう1

回現状把握することが必要になってくると思います。以上です。

委員：田倉の三匹獅子の映像をデジタル化しているということですが、いつ頃のものですか。また、市史編纂事業の中で、いわゆるつくば市の通史編の刊行、これは計画にありますか。

事務局：まず田倉の三匹獅子ですが昭和 57 年（1982 年）の豊里町の文化祭と昭和 60 年（1985 年）の科学万博の豊里町の日のものであります。たまたま、その時の会員の方の家に残っていて、倉庫整理をしていたら出てきたというものです。今は上郷周辺でも周辺市街地振興室というところが関わって地域のまちづくりをいろいろやっていますが、その中でも田倉の三匹獅子に会長が関心を持っていて、そういう動きとも連動して保存会の再興に向かっていきます。保存会自体は指定解除にはなっていないので、保存会の会長が変更になるという届出を出してもらって、そこで今新しくできた保存会に引き継ぐという扱いにしていきたいと考えています。もう一つ、『つくば市史』について今のところは何年というのはまだ決めていません。保存活用計画の中では、中期的な課題としてあり、まだ具体的な準備段階には入っていません。以上です。

委員：大変貴重な資料がデジタル化をされたということで非常によかったと思います。1 点、質問というかお考えをお示しいただきたいのですが、このデジタル化した資料を、どのように公開されるか、あるいは活用されるか、お考えがあればお伺いしたいです。

事務局：学術的な用途での貸し出しですとか、公開ということについては、撮影者さんとビデオを持っていた方に了解はいただいています。

副会長：歴史的な資料について、散逸したり、なくなったり、所有者が不在になったりすることがあるということだったので、やっぱり市で収集とか確認をしているという事実を市民の方々に示していく必要があります。古い家を解体するとかそういう時には、御連絡いただいて、歴史的に価値があるものがあれば御寄贈いただくとか、積極的に市民の方々からの情報提供を、市報

やホームページを通じて呼びかけていって、市がそういうものを収集・確認していることをもう少し知らせていたらどうかというふうに感じました。

事務局：何年か前に広報誌に載せたことがあります。最近、埋蔵文化財の土地の開発の時には手続きをと広報誌に掲載する機会を年に1回作っているのので、それに併せて古文書などについても呼びかけるようにしていきたいと思えます。

会長：小田城跡の確認調査の予算が削減されているとのことですが、今後も同じでしょうか。計画を考えないといけないのではないのでしょうか。削減には何か理由があるのでしょうか。

事務局：はい、国の発掘調査の補助金が46%減になっています。今年削減幅が大きかったのは一つには防災の関係だというふうに言われており、全国一律で結構カットされているということを聞いています。この先も、今年ほどかどうかわかりませんが、補助金が削減されることは考えられます。小田城跡復元整備事業として残っているのが、平成26年以降の確認調査の報告書作成と刊行です。同じ補助事業である開発対応の発掘調査を優先せざるをえませんが、今後検討していきます。

委員：大曾根の薬師堂の件ですが、これは本来、八坂神社の薬師堂から大曾根に曳家してきたかと思いますが、現在の管理者は地区になるのですか、千光寺ですか。

事務局：正式には薬師町の町会ですが、実質的には千光寺に預けられているということになります。

会長：町内会の人達が負担して下さったということですか。

事務局：町内会からも費用をいただいて、千光寺でも改修費用を負担していると聞いています。

委員：慶長の板碑の修繕方法はどんなふうに行った、またはやっているんですか。

事務局：板碑の修復ではなく、説明板の修繕で、説明板が見えなくなったので新たに設置するものです。

委員：小田の不殺生界碑の保存修繕を行った経緯はご存じですよね。で、この板碑は剥離などが問題になってないんですか。

事務局：かなり文字が見つらなくなっています。ただ剥離はしていませんので、おそらく雨とかでの摩滅といいますか、文字が拓本を見ないとよくわからないような状況ではあります。

委員：それをそのまま放置するのですか。

事務局：今のところ、現状のままということにはなりません。

事務局：以前に小田東部地区にある不殺生界碑という板碑を修理というか樹脂含浸で保存した例がありますが、今も剥離が見られます。石の保存は結構難しく、表面は強化できたのですが、表面の固まった部分との間に水が入って凍ったりするとそこが剥がれやすくなってきます。また、板碑には薄く剥がれやすい石を使っているのです、不殺生界碑については実験的に保存処理をしたのですがまだ完全ではないです。また、屋根を土地の所有者がかけてっていますが、今はその屋根も傷んできていて、市で直せないかという要望も町の人からきています。その件についても、他のいろんな案件と含めて検討させていただきます。

委員：小田城跡等の草刈りの増額の理由は何ですか。

事務局：やはり燃料費・人件費とも単価が全部上がっていますので、続けて増額しているということになります。

委員：薬師堂で説明板も壊れていたようですが、ここは修復もされたのでしょうか。

事務局：説明板の修理はしていません。写真にある枠のところに解説板が昔あったようですが、これは付けるとしたら市ということになってきます。今後検討します。

事務局：主要事業のうち、活用事業について資料に基づき説明。

委員：今いろいろ説明を聞いて感じたことですが、小田と平沢を比較した場合、平沢ではつくば物語がもう廃止になると。観光ではこれをつくばの四大イベントとしての位置づけだったわけですが、なぜ廃止になったのか。いろいろ事情があったのでしょけれど、文化財はその保存と活用が求められているのに平沢はどうも尻すぼみになってきているような印象を受けます。小田城は随分いろいろなイベントでも活用されているというイメージがありますが、平沢ではつくば物語に代わるような活用に向けての何かはありますか。

事務局：つくば物語はやめたわけではないですが、やはり観光部局でやっているのでもそこまでの大きなイベントとなっています。文化財課ではそこまでの大きなイベントはできないのですが、今回も企画展で古代が中心だったということで、平沢官衙遺跡周辺を紹介するウォーキングを実施しました。やはり文化財課としてはこういったウォーキングをしたり、解説をしたりということで地道に史跡を紹介していくことが重要かと思っており、平沢のほうでも力を入れてやっていけたらと思っています。

事務局：もう一方でハード面としては、保存活用計画を作った先で屋根の修理ですとか柱表示の改修という再整備事業をいろいろと考えていくことにはなるので、その意味では活動面ではありませんが、今後お金はかけていくことにはなると思います。

委員：それは活用の部分ではないから。もちろん平沢でつくば物語を開催してくれば一番いいのですが、筑波東中を使ったジオパークの話で、自転車のりんりんロードがナショナルサイクルルートとして全国で3つのうちを選定されました。しまなみ海道と琵琶湖周辺の自転車道と、つくばのりんりんロードが選ばれたそうです。それでりんりんロードで市は今まで何をやってき

たかというとなんにもして来なかったんですね。区会は草刈りとか、桜の剪定とかをしていたんですよ。これは皆さんご存じでしょうが、りんりんロードは筑波東中とはなんら接点がありません。それなので、筑波東中を今後活用するのであれば、その接続アクセスを良くしていただかないと。せっかく全国で3カ所選ばれており、なおかつジオパークで筑波東中を活用するというのであれば、アクセス道路の整備をしていただきたいということです。

事務局：経済部に相乗りする形なので、施設整備に関して文化財課がイニシアチブを持っているわけではないのですが、ジオパークの展示には歴史的部分も元々考えられていましたので、そこを膨らませる形で文化財の展示も作っていくというイメージです。そのため施設全体や運営としても経済部で、特産品とかも入ってくると思います。ただ設備については経済部のほうが上手いと思います。

委員：遺跡地図とありましたが、これは一般向けになっているのでしょうか。また、ボランティア講座は今年もやるのですか。またどのくらいの参加者があったのですか。

事務局：今までの遺跡地図は基本的には地図と一覧がついているだけでした。ただこれでは一般の方が見てもあまり面白くないので、遺跡をまわるモデルコースですとか、市域内全域で、面白い発掘成果の遺跡を取り上げて解説をしています。そういったものを見て現地に足を運んで、整備したところですか、現地に行ってこの辺なのかなと感じられるかと思っております。

事務局：文化財ボランティアについては、第一回で参加者は中高年11名で、現在10名が登録しています。25人位の募集を考えていましたが、ボランティアという名前をつけたことで普通の講座より応募者数は控えめになったとは思っています。普通の歴史講座だと大体定員いっぱいになるのですが、ボランティアの養成講座といったときには、やる気がある方が集まってくれましたが、登録者数自体は1回ではそんなに増えていかないと感じました。そのた

め、講座としては年に前期後期で2回ぐらいやって、当面は20～30人ぐらいの人数が確保できるように増やしていく段階なのかと思っています。

副会長：このボランティア養成講座、今回の保存活用計画の中で目玉的なものでしたので本当にやっていただいてありがとうございます。私どもも3年かけて環境のボランティアを養成して、それで30名の登録者を得ていたのも、やはり年間10名、大きな成果じゃないかと思っています。できるだけこの方々を大事に育成していただいて、活躍のチャンス、今度もイベントで解説していただけるという話でしたので、そのフォローをしていただきながら、その解説員さん同士が自分たちで自己研鑽をしていけるような環境を作っていて、いろんな資料をお渡しするとか何かこうステップアップができるような仕組みを作っていて、それで次に続けていただきたいなと思っています。滑り出しとしては上々かと私は思いますので、ぜひ続けていただければと思います、よろしく願いいたします。

委員：登録者はどのような方ですか。年代や、男女比などを教えてください。

事務局：登録者は、まず感じたのが、歴史に詳しくてマニアックな人がいらっしやるのかなという予想でいたのですが、そうではなくてどちらかというと、新しく移住してきた人、10年ぐらいになる人という方が多かったです。男女比でいうと半々位です。案外女性が多かったと感じています。年齢で言うと40代から60代で、男性だと60代が多いです。以前、文化財課の職員だった方もお越しいただいて、もう即戦力候補かと思っています。

委員：コンベンションビューローにボランティアがいますよね。あそこの方々は出てきていなかったですか。

事務局：観光ボランティア298の方がいたかは分かりませんが、私が以前コンベンションビューローにいた時に会議の支援や語学の支援をしてくれるボランティアの方が1人、今回の文化財ボランティアの方にも来ていただきました。

会長：私から1件、この資料の作り方ですが、例えば、文化財展示講座等事業で活動実績、どこで何人の来場者があったみたいなものがありますよね。今度この下の指標の推移のところを毎年続けて実績値として入力すれば、昨年より多かったとか少なかったとかそういう検討に使えると思っています。全体的にこの欄が空いているところが結構ありますが、もうちょっと活用していただけるといいかと思います。ぜひ検討して下さい。

事務局：文化財の場合、目標として入れにくいものが多くて空欄が目立ちますが、来館者数はやっぱり入れるべきと感じますので、検討したいと思います。

会長：もう1点、やはり資料の作り方のポイントで、確か昨年度の委員会で資料をなるべく簡素化することになって、それで今回このほかの事業とか共通するフォーマットを出していただいたということでもいいと思いますが、文化財課としての事業の予算が総額いくらでどうなったという全体像がちょっとわかりづらいので、簡単で構いませんから、1枚この前に予算がいくらあったけどこの部分がオーバーしたとか、それほど施行しなかったとかわかるようになっていいと思います。またページも打っていただいた方がいいと思います。

事務局：改善いたします。

会長：他になれば議事の2番目のほうに移りたいと思いますがよろしいでしょうか。つくば市文化財保存活用計画の進捗評価についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：資料に基づき説明

会長：そうすると審議会としてこの進捗評価の全ての欄にA B C Dのいずれかの判断をする必要があるということになりますか。たくさんありますけど。あえて評価させていただいてもっとやって下さいと申し上げることも可能で

すが、それが首を締めることにもなるような気がする。どんなふうにしめようかね。まずBが一番多いのですけれども、このBの中で、もうちょっと上ぐらい評価してもいいのではないかとか、あるいは逆にがんばって欲しいからCにさせていただいた方がいいのではないかとか、そういうようなものがあつたら先にまずそれをお聞きしましょうか。

委員：これがいいかどうかという点で、進捗管理表の方ですけれど、例えばまず、「継続する取り組み」の項目の一個一個を担当課で自己評価に入れていただくと、きっと委員の方がそれに基づいて全体の評価がやりやすいのではないかと思います。今回はもうこれで出ていますが、今後検討して頂けるといいです。委員としても今後も文化財保護審議会が年に2回開かれるとして、この表が出てきてここで今評価をしましょうと言っても時間だけが過ぎてしまうので、この項目ごとの方がいいかと思いました。感想も含めて以上です。

副会長：私としてはこの審議会として、進捗評価をここに付けることが適切なのか疑問があります。やはり会議は年に2回ほどしかないですし、それで非常によく文化財課の方はやってらっしゃるとは思うのですけれども、それをABCで評価するというのはあまりに全体を把握しきれない感じがします。一つ一つをABCというよりは、審議会としてのコメントをつけるという程度でもいいかと思えます。これは担当課さんが自己評価していただいて、それに対してやり残しとか、非常に良くやっていますよとか、これは順調としているけれども、ちょっとこの辺はできるのではないですかというような、そういうコメントをつける程度ではどうでしょうか、というのが私の感想です。一つ一つこれを決めていくとなると全員の合意が必要になるので、そうするとある人はこれでいいでしょう、ある人はいやだとかいろんな意見が出てきたときに、どういうふうに審議会としてそれを一つ一つ、では決めますかというような話になっていくような気がして、時間がかかりかかってしまうということもあるので、文化財保護審議会としてそこに評価をつける

というのはどうなのかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

事務局：ありがとうございます。私どもとしては保存活用計画を策定して、進捗状況の実績評価を行わなければならないという思いがあり、審議会の皆様の御意見もいただきたいということでこのような表の書き方をさせていただきましたが、保存活用計画では審議会に進捗状況を報告して、指導・助言をいただくという記載になっておりますので、今ほど委員がおっしゃったようなやり方で、事務局としては、一つ一つの施策に対してこういう評価を行ったと、それに対しての御意見をいただくというような形がよろしいかと、今の御意見いただいて私も思ったところでございます。

会長：市としては審議会のA B Cの評価はいただかないということですね。

事務局：そう変更したいと思います。

会長：市全体としてこういう評価が義務づけられているのかと聞いていたのですが、そうではないのならば、むしろ今までの議論の中で既に委員の方々から御意見をいただいていると思います。例えば市史編纂事業を着実に進めて欲しいというのは、御意見の一つだったかと思いますが、それぞれの項目に関してもいろいろあったと思うので、そうした御意見を議事録から抜き出して書いていただくような形でいいのかなと思いますが、いかがでしょうか。

副会長：それで、この表を見てちょっと気になったことを。その一番上の各種文化財調査事業のところに、文化財調査で市内の大学・研究機関との連携をより密にとありますが、この市内の大学・研究機関というのは具体的にどういうところを想定されているか、予定していることがあれば教えていただきたいと思います。

事務局：計画をつくるときに、市内にこれだけ国立の研究所や大学がいっぱいあるので連携はもっとしていったほうが事業も成果が出るのではないかとというのが趣旨だったかと思いますが。現在も専門的なN P O法人と連携しているわけですし、筑波大学とも以前に民俗調査や古民家調査を連携して行ったこ

とがあり、そういう事業になるかと思えます。また、歴史・考古学系の先生方とは個別で御指導いただいたりもしています。

副会長：国立の研究所であっても大学であっても構わないですし、つくば市の環境をもっと活かしたいという方向は分かりますが、具体的にどこと連携するというのがあったほうがいいです。アプローチが漠然としていると忙しい中でやれないと思うので、どことはどういう連携を取るかということピックアップしていただいて、市民ボランティアさんの養成講座などでも、参加すれば協力してくれる先生の講義が聞けるとか、少しインセンティブみたいなものが出てくると、歴史講座なら来るのだけれどもボランティアなら行かないという人たちが、そっちも行ってみようかなと思うとか。何かもう少し事業の全体をお示しして、具体的なお話しを大学の先生や研究機関の方に持っていったらいいのではないかと思うので、大学の先生とか研究機関の人に協力してもらいたいことを一覧としてピックアップしたら、今後アプローチしていく手順ができていくのではないかと思いました。また、市から研究機関に一度にまとめて依頼しても協力を得るのが難しいので、順次可能になったらお願いするというように取り組んでいかれたらいいかなと思います。

事務局：はい、そのとおりだと思います。検討させていただきます。あと悉皆調査については、研究機関と連携して委託業務としてやっていきたいと思っていますので、巨樹・古木調査が一段落して次に何をやっていくかとも、次に何をやるかとも関係してくると思っています。

会長：今の件でいうと、表の一番右側の新規開始充実強化を図る取り組みというところは、かなり具体的に書いてあるところとそうでないところがいろいろありますね。比較的たやすそうなところと、何から手をつけたらいいのかわからないってところがあるわけですので、もしかするとここ自体ももう一度考えてみるといいのかもしれないですね。

会長：ほかにはいかがでしょうか。

委員：自己評価について、例えば今年で完了する自然文化財調査や、重要史料の刊行を積み上げている市史編纂、神橋の修理が完了した民有文化財の保存事業のように、その年度できちんと達成できて、文化財の保存活用として非常に優れたものが出たときには、それを正当に評価するべきだと思います。

会長：今の御意見を参考に、自己評価のところまで変更していただいても構わないのですよね。それも検討していただいた方がいいかもしれません。

事務局：はい御意見ありがとうございます。フォーマットにしても最初に申し上げたようにこれから検討したいところもございますし、その評価につきましても今おっしゃっていただいたようにもう一度確認させていただきまして、また御報告できればと思います。よろしく願いいたします。

会長：よろしく願いします。時間もなくなってきたので、案件2、事務局から説明願います。

事務局：下岩崎観音堂と小田解脱寺について説明。

委員：今2件、御説明ありましたが、まず下岩崎の観音堂のほうについて。仏像ですが、厨子の中に入っている本尊が如意輪観音像、その次の寺宝とされる観音像が如意輪観音なので、そうするとここに出てくる十一面観音ではないという点がまず1点。それと仏像に関しては県が専門の先生に依頼して調査をされていましたが、ここは調査をしてないのですか。

事務局：していません。

委員：そうすると、ぜひここにもあるように専門家によるしっかりした調査が必要なのかなと思います。自分の見地から言うと、現物を見ていないで言うのは失礼ですけども、本尊のほうは胡粉なのでこれは近世的な感じはするのですが、寺宝と言っているほうは中世まであるいは江戸初期かもしれないですけどきっといいものなんじゃないかなと思います。それから経緯につい

でもお話しいただきましたが、市役所の1階で飾られたパネル展を私も見せていただき、非常によくまとまっており、あるいは思いにあふれているとの感じを受けて、ほんとに素晴らしいなと思いました。文化財指定にということはその後かと思いますが、基礎的な資料調査をするとういと思いました。

それから、女人講の絵馬のほうですけれど、こちらの絵馬もぜひ裏面の確認を取れるといいのかと思います。相当大きいですし、女人信仰について民俗調査も含めてできればいいと思いました。

解脱寺の方ですが、古い慶長期の内陣と外陣だけでもその新しい本堂に組み込むようなものが提案できるといいと思いました。もちろん指定文化財ではないので、どこまで文化財課のほうで解脱寺さんの方に提言できるかというのがあるかと思いますが、やっぱり調査が入られて貴重なものが見つかるのであれば、その慶長期と思われる内陣・外陣だけでも新たな本堂に組み込むこととか、あるいは古い部材を生かしてとか彫刻の部分だけでもうまくこう生かせるといいのかなという感想を持ちました。

会長：解脱寺の関係で、もし何かあれば。

委員：地元でありながら詳しいことがよくわからなくて。ただ地元としましてはとにかく耐震の点で危なくて、ここは利用しているところなので、随分長い時間をかけてどうしようか検討されてきたところなのですね。一番問題になるのは予算のほうでして、地元の人たちがお金を出し合って文化財として直していくということは難しいので、メモリアルホールみたいな形に変えようかという案に流れそうになった時期もあったのですが、何とか本堂は建替えようとなって、実は去年の9月にもう解体工事入る予定だと聞きましたから、びっくりして文化財課の方にお話ししたのです。そんな経緯がありました。具体的なことは詳しく分からないので。

事務局：関係者の意見を聴くと、これを残していくのは難しいと思っています。そこで、こういうものがあつたことを専門家に調べてもらって記録保存とい

う形でも残していくことが次善策かと思っています。彫刻のある部材については、できるだけサンプル的にでも保管できたらと思っています。

会長：補足しますと調査を昨年末に行って、それから年明けて調査者と私で御住職に少しお話をしました。その調査結果に基づいてかなり貴重なもの、かなり希少なものであるということもお伝えしています。御檀家さん及び御住職もその段階では全て新築建て替える方針で、もし修復するならば費用が多額になると業者から聴いているということだったのですが、調査者の見立てでは修復でも費用はもう少し抑えられるのではないかともお伝えして、檀家さんにも話してみますというのが御住職さんのそのときの御回答でした。それで例えば今から新しく指定文化財にしていくことは今後の計画としてもそう容易なことではないし、それから改造がかなりありますから文化財の状態として凄くいいものとはちょっと言いかねると思うのですね。ただそれでも、地域にとっての景観であるとか、あるいは歴史の証人であるとかという面では貴重なものであることは間違いがないので、もし檀家さんが何とか残していこうと決断をされるのであれば、例えば文化財として難しくても景観のほうから何か支援していくことができないかと、これは私個人の意見としてはお伝えしてきたところです。最終的にどういうふうに御判断されるかわかりませんが、お寺さんなので基本は檀家さんなり御住職が何とかしようと思われていたかと思うと周りが頑張っただけでどうなるものでもないで、まずその御判断をお待ちしたいなというふうに思っています。もし残していただけるようだったら、いろんな形が、一応は制度としてはありますから、何かできることはないかと探しているところです。他に解脱寺や下岩崎観音堂についてございますか。

事務局：行政の支援については文化財指定をしない限りは政教分離の点から難しいかと思っています。そのため、所有者さんの判断によらざるを得ません。

絵馬の評価についてうかがいたくお願いいたします。

委員：下岩崎の絵馬については、指定かどうかはともかく非常に貴重なものだと思います。是非保存して欲しいと考えています。それで、そのものだけではなくて、そこに付帯されているこの地域の方たちの信仰のあり方みたいなものを同時に調査記録する必要があるかなと思います。内部を見ましても今もきちんとこの信仰が生きているように見受けられますので、民俗資料として保存や記録を進めていくことができればいいと希望するところです。

委員：今年度の事業とは別の話となりますが、企画展事業は来年度、今度はどういうテーマでやろうというのは決まっていますか。

事務局：今のところは考えていないですけど、ただ課内では、今年ジオパークの再審査があるので、ジオパーク関係はどうかという話は出ておりました。

委員：一つの提案というか自分の希望も兼ねての話として聞いていただきたいのですが、今『麒麟がくる』という大河ドラマがありますよね。今、明智光秀が盛り上がっているかと思います。先週に尾美としのりさんがやっていた役の、土岐頼芸という人が出てくるのですが、この土岐頼芸の書いた絵を小田の龍勝寺というところで持っています。ご存じのように今後、斎藤道三に追われた後どこに行くのかというと、茨城の江戸崎に来るのですが、それは弟をとおして来るのであります。もともとこの小田氏と土岐氏は非常に関係が深いので、さらにテレビに出てきているあの人が書いた絵もつくばで指定文化財になっていて、つくばで持っていてほとんどの方が見ていない、私も見たことはないのですが、ぜひ紹介してほしい。早くやらないと終わってしまうので、一つの検討材料としていただきたい。

事務局：参考にさせていただきます。

会長：長時間にわたり本当に貴重な御意見をありがとうございました。以上で議事を終了いたします。

事務局：これを持ちまして、令和元年度第2回の文化財保存審議会を閉会いたします。



# 令和元年度第2回文化財保護審議会 会議次第

と き 令和2年2月10日（月）

午前10時00分～

ところ 市役所コミュニティ棟3階会議室A

## 1 開会・挨拶

## 2 議事

(1) 令和元年度主要事業の報告について

(2) つくば市文化財保存活用計画の進捗評価について

(3) その他

・下岩崎観音堂について

・小田解脱寺について

## 3 閉会

令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報									
事務事業名	981 各種文化財基本調査事業								
戦略プラン	I	3	3	文化財保護の推進	担当部課	教育局文化財課			
総合戦略					係名	保存係			
					新規・継続	新規			
予算科目	01-100503-12 文化財調査に要する経費				事業分類	任意的事務			
要求区分	事業期間					市民参加	<input type="checkbox"/> 共有、理解		
個別計画	つくば市文化財保存活用計画				<input type="checkbox"/> 企画・立案、計画				
根拠法令	文化財保護法				<input type="checkbox"/> 実行				
					事業体制	一部委託			
						市長公約			
概要									
事業の目的					事業の概要				
市内に所在する無指定を含む各種文化財の基本調査を行い、基礎データを収集し、今後の保存対策の立案・資料蓄積及び「まちづくり」の根幹となる地域独自の文化財の把握をするため。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・悉皆調査 各種文化財について計画的・継続的に所在や概要を把握する基本調査 H26年度から6年計画で自然文化財調査1件を実施中</li> <li>・文化財現況確認調査 巡視等により文化財の現状を把握する。</li> <li>・その他文化財の調査 その他必要に応じて各種調査を行う。</li> </ul>				
評価									
事業計画					活動実績				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・悉皆調査は自然文化財調査の6年目で、筑波山地を対象に30件を目標に行う。その過程で新規対象が生じた場合は適宜追加調査する。</li> <li>・今年度分調査まとめに加え、H26年度からの調査成果をまとめた報告書を作成する。</li> <li>・夏・冬の2回、県文化財保護指導員とともに国県指定文化財等の巡視を行う。</li> <li>・必要に応じて各種文化財調査を行う。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・悉皆調査は筑波山・宝篋山の巨樹・古木等を対象に、5・6月に現地調査し、市内全域の現地調査を完了した。調査件数は今年度分73件、全体で497件となった。今後、3月までに今年度及び調査全体をまとめた報告書を作成する。</li> <li>・8月と1月の2回、県文化財保護指導員とともに国県指定文化財等の巡視を行った。</li> <li>・11月から2月に、解体が予定されている小田所在の解脱寺について、現状を記録するための建造物調査を実施した。</li> </ul>				
成果					課題				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・悉皆調査により、調査以前は不明であった巨樹・古木の基礎データがまとめられ、今後の保存活用の資料ができた。</li> <li>・巡視を通じて指定等文化財の現状が把握できた。</li> <li>・解脱寺の調査により、江戸時代の寺院建築の詳細な記録資料が蓄積できた。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・巨樹・古木調査の成果を市民等にわかりやすく公開することが必要である。</li> </ul>				
改善目標（R02年度にむけて）									
巨樹・古木調査の成果をまとめた市民向けの刊行物を作成する。									
指標の推移									
1	指標名	悉皆調査件数 ( 件 )					活動指標		
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	73.0	0.0	
	指標の概要								
2	指標名	巡視による現況確認文化財件数 ( 件 )					活動指標		
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.0	0.0	

	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 0	0	0	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 0	0	0	0
	一般財源	(千円) 0	772	620	0
事業費計		(千円) 0	772	620	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人) 0.00	0.30		
	時間外勤務	(時間) 0.00	20.00		
	臨時職員等	(有無) 無	無		
人件費		(千円) 0	2,168		
事業コスト		(千円) 0	2,940		

R02年度当初積算根拠  
 調査員謝礼 20千円  
 文化財悉皆調査委託料 600千円

予算の方向性	理由
維持	

方向性	
市民ニーズ	4 十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み	
進捗状況	3 やや遅れたが、今年度の実施計画を達成した。
事業が計画的に進んでいるか	
市の関与	2 今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について	
優先度	2 継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか	

# 令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報										
事務事業名	982 埋蔵文化財調査・保存事業									
戦略プラン	I	3	3	文化財保護の推進	担当部課	教育局文化財課				
総合戦略					係名	保存係				
					新規・継続	新規				
					事業分類	法定＋任意				
予算科目	01-100503-12 文化財調査に要する経費				市民参加	<input type="checkbox"/> 共有、理解				
要求区分	事業期間					<input type="checkbox"/> 企画・立案、計画				
個別計画	つくば市文化財保存活用計画					<input type="checkbox"/> 実行				
根拠法令	文化財保護法				事業体制	一部委託				
					市長公約					
概要										
事業の目的					事業の概要					
市内に所在する埋蔵文化財について、各種開発等に伴って掘削を伴う工事等が行われる際に、文化財保護法等で定められた調査・調整等の手続きを行い、保存措置を講じる。また、重要な遺跡について調査を行い、今後の保存・活用を立案する。調査で得られた出土品等は市の歴史を物語る資料として保管・活用する。					<ol style="list-style-type: none"> <li>各種開発等に伴う埋蔵文化財取扱事務</li> <li>各種開発等に伴う試掘・確認調査</li> <li>非営利目的での本発掘調査等</li> <li>民間調査機関による記録保存調査の調整</li> <li>重要な遺跡の保存・活用を検討するための内容確認調査</li> </ol>					
評価										
事業計画					活動実績					
埋蔵文化財所在地で開発等が生じたときに、状況に応じて必要な調査・調整を実施する。					<ol style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財の有無照会：文書172件、窓口・ファックス等1,915か所。</li> <li>各種開発に伴う試掘・確認調査29件。</li> <li>本発掘調査3件。調査件数計32件。</li> <li>昨年度、民間調査組織が実施した本発掘調査の報告書作成について、調整・協議を行った。</li> <li>重要遺跡の保存・活用のための調査はなし。</li> </ol>					
成果					課題					
<ol style="list-style-type: none"> <li>有無照会に迅速かつ的確に回答して、事業者が開発の計画立案や手続き等を適切に行えるようにすることができた。</li> <li>試掘・確認調査を実施することで、市民生活や経済活動に大きな支障を及ぼすことなく、開発と保存を調整できた。</li> <li>本発掘調査等で得た出土品や遺跡の情報などの調査成果が、市の貴重な財産になった。</li> </ol>					太陽光発電施設開発等の増加によって増えた業務を、いかに効率良く行っていくかが課題である。					
改善目標（R02年度にむけて）										
重複している文書の手続きなど、省略可能な業務を減らし、一層の効率化を図る。										
指標の推移										
1	指標名	試掘・確認調査の件数					( 件数 )		活動指標	
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度		
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.0	24.0		
	実績	15.0	29.0	34.0	29.0	27.0	29.0	0.0		
	指標の概要	埋蔵文化財の有無照会や調査件数は、開発等の発生状況に左右されるため、指標を設定できないが、参考までに月2件×12か月＝24件を目標値とした。								
2	指標名						( )			
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度		
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 2,707	3,196	0	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 0	0	0	0
	一般財源	(千円) 3,407	4,017	0	0
事業費計		(千円) 6,114	7,213	0	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人) 1.10	1.50		
	時間外勤務	(時間) 600.00	350.00		
	臨時職員等	(有無) 有	有		
人件費		(千円) 9,253	11,455		
事業コスト		(千円) 15,367	18,668		

R02年度当初積算根拠  
 04会計年度任用職員報酬 6,720千円  
 08指導謝礼 20千円  
 09旅費 408千円 (普通5千円、会計年度任用職員費用弁償 403千円)  
 11需用費 725千円 (消耗品費 224千円、燃料費 3千円、写真現像代 3千円、報告書印刷代 495千円)  
 12汲取手数料 10千円  
 13委託料 707千円 (出土品等分析 107千円、天然記念物悉皆調査 600千円)  
 14使用料及び賃借料 (重機・調査機材) 945千円  
 16埋戻し用原材料費 5千円  
 18備品購入費 (テント) 62千円  
 ※歳入 国庫補助金 4,398千円 (埋蔵文化財発掘調査等事業・対象経費の1/2)

予算の方向性	理由	令和2年度に予定される複数の大規模開発に伴う試掘・確認調査に対応することと、会計任用年度職員への変更に伴う報酬増額のため。
拡充		

方向性

市民ニーズ	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	3	法令等により、市の実施が定められている。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		

# 令和元年度 事務事業マネジメントシート

## 事業の基本情報

事務事業名	862 小田城跡確認調査事業						
戦略プラン					担当部課	教育局文化財課	
総合戦略					係名	保存係・活用係	
					新規・継続	継続	
予算科目	01-100503-15 小田城跡に要する経費						
要求区分		事業期間	平成 9年度～令和 2年度				
個別計画	史跡小田城跡保存整備基本計画、つくば市文化財保存活用計画				市民参加	<input checked="" type="checkbox"/> 共有、理解 <input type="checkbox"/> 企画・立案、計画 <input type="checkbox"/> 実行 <input type="checkbox"/> 評価・検証	
根拠法令					事業体制	職員のみ	
					市長公約		

## 概要

事業の目的	事業の概要
買収した土地等、「小田城跡」の地下状況を把握、確認するため。	・国指定史跡「小田城跡」の本丸周辺部(遺構保全ゾーン)、約71,000㎡のうち、4,500㎡を目安に平成9年度～令和2年度(現地調査はH30年度まで)で発掘調査及び整理調査を実施する。

## 評価

事業計画	活動実績
・平成26～30年度の現地調査基礎整理を完了させるほか、出土品保存処理を行う。	・報告書刊行に向けて、26年度～30年度の現地調査基礎整理を完了させ、一部詳細調査を実施した。また木製品3点の保存処理を行った。

## 成果

・基礎整理を進めることで、保存・整備・活用の計画作成に必要な基礎資料を得ることができた。また木製品の保存処理を実施することで、出土品の恒久的な保存が可能となった。	課題 令和2年度分の国補助金が減額される可能性があり、予定通り事業を進められるか不透明である。
---	--

## 改善目標 (R02年度にむけて)

令和2年度は、詳細整理を進め、報告書作成を継続する。

## 指標の推移

指標名	累計発掘調査面積 (㎡)						活動指標	
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	
1	目標値	3,700.0	4,000.0	4,200.0	4,500.0	4,800.0	4,800.0	0.0
	実績	3,774.0	4,122.0	4,350.0	4,642.0	5,035.0	5,035.0	0.0
	指標の概要	発掘調査面積の合計。令和元年度は整理調査のみのため0㎡。						
2	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標名							

	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 1,788	615	2,002	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 0	0	0	0
	一般財源	(千円) 2,250	635	2,034	0
事業費計		(千円) 4,038	1,250	4,036	0
人件費内訳	正職員 従事割合	(人) 0.60	0.60		
	時間外勤務	(時間) 173.50	130.00		
	臨時職員等	(有無) 有	有		
人件費		(千円) 4,666	4,558		
事業コスト		(千円) 8,704	5,808		

R02年度当初積算根拠  
 08報酬 2,037千円 (会計年度任用職員報酬)  
 09旅費 122千円 (会計年度任用職員費用弁償)  
 11需用費 673千円 (消耗品費 183千円、報告書印刷代 490千円)  
 13委託料 1,204千円 (理化学分析 263千円、保存処理 941千円)  
 ※歳入 国庫補助金 2,002千円 (埋蔵文化財発掘調査等事業・対象経費の1/2)

予算の方向性	理由
維持	

方向性	
市民ニーズ	3 今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み	
進捗状況	4 計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか	
市の関与	2 今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について	
優先度	2 継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか	

# 令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報										
事務事業名	859 市史編纂事業									
戦略プラン						担当部課	教育局文化財課			
総合戦略						係名	保存係			
						新規・継続	継続			
						事業分類	任意的事務			
予算科目	01-100503-14 市史編纂に要する経費									
要求区分	事業期間									
個別計画	つくば市文化財保存活用計画									
						市民参加	<input type="checkbox"/> 共有、理解 <input type="checkbox"/> 企画・立案、計画 <input type="checkbox"/> 実行 <input type="checkbox"/> 評価・検証			
根拠法令										
						事業体制	職員のみ			
						市長公約				
概要										
事業の目的					事業の概要					
歴史資料を体系的・分類的に調査・整理・記録して郷土の歴史を正しく後世へ伝えるため。					<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有史・資料の整理及び解読作業（江戸時代の近世文書を中心に行う。）</li> <li>・史・資料集の刊行 整理・解読後の史・資料について、史・資料集を刊行</li> <li>・未発見史・資料の調査及び記録 記録の写真、デジタルデータ化を行う。</li> <li>・市関連史・資料の入手（古書店等からの購入を含む。）</li> </ul>					
評価										
事業計画					活動実績					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保有史・資料の整理及び解読作業</li> <li>・史・資料集を、年内に編集し、印刷製本契約後、年度末に刊行</li> <li>・未発見史・資料の調査及び記録</li> <li>・市関連史・資料の入手</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・古文書の解読</li> <li>・市史史料集第十六編『古来村御用留（上）』刊行</li> <li>・新史料の調査、写真撮影</li> <li>・市関連資料の受贈 4件</li> <li>・市史関係資料の購入 4件</li> <li>・田倉三匹獅子映像資料のデジタル化を実施</li> <li>・市史販売広報活動の実施</li> </ul>					
成果					課題					
旧町村史編纂時に目録のみ作成した資料を、調査・写真撮影し、解読をして史料集1冊を刊行、内容の公開ができた。また、市関連資料の寄贈を受け、流出した市史関係史料を購入し、民俗芸能の映像をデジタル化するなど、市関連資料の保存ができた。					旧町村史編纂時に調査を行った重要な史料については、史料集の刊行がほぼ終了したが、まだ目録のみのものがある。また、所有者の代替わりにより史料の所在が不明になる場合が多く見受けられる。					
改善目標（R02年度にむけて）										
史料の所在確認と、目録のみの史料の調査・写真撮影などを実施する。										
指標の推移										
1	指標名	図書刊行					( 冊 )		活動指標	
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度		
	目標値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
	実績	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.0		
	指標の概要	整理・読解の終了した史・資料について、冊子として刊行する。								
2	指標名						( )			
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度		
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 0	0	0	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 154	100	220	0
	一般財源	(千円) 349	852	467	0
事業費計		(千円) 503	952	687	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人) 0.20	0.20		
	時間外勤務	(時間) 0.00	20.00		
	臨時職員等	(有無) 有	有		
人件費		(千円) 1,412	1,462		
事業コスト		(千円) 1,915	2,414		

R02年度当初積算根拠

- ・普通旅費 5千円
- ・需用費 512千円 (消耗品 12千円、市史史料集印刷製本 500千円)
- ・委託料 70千円 (重要資料撮影委託)
- ・備品購入費 100千円 (市史関連歴史資料)
- ※歳入 町村史売上料 220千円

予算の方向性	理由
維持	

方向性

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		



	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 0	0	0	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 0	0	0	0
	一般財源	(千円) 164	148	228	0
事業費計		(千円) 164	148	228	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人) 0.15	0.15		
	時間外勤務	(時間) 0.00	0.00		
	臨時職員等	(有無) 無	無		
人件費		(千円) 1,059	1,059		
事業コスト		(千円) 1,223	1,207		

R02年度当初積算根拠

- ・文化財保護審議会委員報酬 168,000円
- ・会議開催に伴う費用弁償 60,000円

予算の方向性	理由
維持	

方向性

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	3	他の事業に優先して進める必要がある。
事業の優先度はどうか		



	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成30年度 (決算)	令和1年度 (決算)	令和2年度 (当初)	令和3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 0	0	0	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 16	16	38	0
	一般財源	(千円) 3,751	8,740	7,143	0
事業費計		(千円) 3,767	8,756	7,181	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人) 0.40	0.40		
	時間外勤務	(時間) 250.00	90.00		
	臨時職員等	(有無) 無	無		
人件費		(千円) 3,444	3,047		
事業コスト		(千円) 7,211	11,803		

RO2年度当初積算根拠

- ・報償費100千円
- ・旅費 240千円
- ・需用費319千円①消耗品13,000円 ②印刷製本費6,000円 ③市管理指定文化財修繕料300,000円
- ・委託料4,080千円
- ・使用料及び賃借料707千円 土地賃借料 市指定史跡日向廃寺跡借地 借地面積1,285㎡×550円/㎡=706,750円
- ・工事請負費396千円 指定文化財説明(案内)板設置工事一式396,000円
- ・負担金補助及び交付金1,339千円
- ※歳入 行政財産使用料38千円

予算の方向性	理由	植栽維持管理委託料の大幅な増額が避けられないため。
拡充		

方向性

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	3	法令等により、市の実施が定められている。
行政が関与する必要性について		
優先度	-	法令等により、市の実施が定められている。又は、今年度で事業が終了する。
事業の優先度はどうか		

# 令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報											
事務事業名	860 小田城跡保存事業										
戦略プラン	I	3	3	文化財保護の推進			担当部課	教育局文化財課			
総合戦略							係名	保存係・活用係			
							新規・継続	継続			
							事業分類	任意の事務			
予算科目	01-100503-15			小田城跡に要する経費							
要求区分				事業期間			市民参加	<input type="checkbox"/> 共有、理解 <input type="checkbox"/> 企画・立案、計画 <input type="checkbox"/> 実行 <input type="checkbox"/> 評価・検証			
個別計画	史跡小田城跡保存整備基本計画、つくば市文化財保存活用計画							事業体制	一部委託		
根拠法令	文化財保護法								市長公約		
概要											
事業の目的					事業の概要						
<p>中世常陸の一大中心地だった、国指定史跡「小田城跡」を土地買収により保存し、歴史公園として活用できるよう復元整備するため。</p>					<ul style="list-style-type: none"> <li>土地買収は、文化庁長官に現状変更を許可されない土地等で実施し、H19年度までに史跡南半の市街化調整区域約11haがほぼ終了し、現在は北半の市街化区域で概ね毎年1筆を買収する。</li> <li>復元整備は、H21～27年度に、史跡（約22ha）中心の本丸跡を主とする遺構整備ゾーン（約4.2ha）で実施し、合わせて展示機能を持つ案内所を建設する。</li> </ul>						
評価											
事業計画					活動実績						
<p>・史跡内2,126㎡の公有化及びそれに伴う測量や鑑定などを実施し、8月までに地権者交渉で合意、年内に登記、支払いを完了し、年度末までに土地の引き渡しを受ける。</p>					<p>史跡内2,126㎡の公有化及びそれに伴う測量や鑑定などを実施し、8月までに地権者交渉で合意した。教育委員会への報告や税控除のための税務協議を行い、12月に契約、登記を完了させた。</p>						
成果					課題						
<p>小田城跡歴史ひろば遺構復元ひろば北側隣接地を購入できたことにより、史跡小田城跡の保存を行うことができたとともに、今後の活用の用地となる。</p>											
改善目標（R02年度にむけて）											
指標の推移											
1	指標名	整備工事の進捗率（H28まで）					（ % ）		成果指標		
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度			
	目標値	80.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	実績	80.0	98.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	指標の概要	整備工事の進捗率									
2	指標名	土地買収面積（H29以降）					（ m <sup>2</sup> ）		活動指標		
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度			
	目標値	0.0	0.0	0.0	870.0	750.0	2,126.0	0.0			
	実績	0.0	0.0	0.0	992.0	748.0	2,135.7	0.0			

	指標の概要	史跡保全のための土地買収面積						
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 27,176	22,648	22,443	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 5,487	0	0	0
	一般財源	(千円) 1,314	5,672	6,020	0
事業費計		(千円) 33,977	28,320	28,463	0
人件費内訳	正職員 従事割合 (人)	0.15	0.15		
	時間外勤務 (時間)	60.00	30.00		
	臨時職員等 (有無)	無	無		
人件費		(千円) 1,208	1,134		
事業コスト		(千円) 35,185	29,454		

R02年度当初積算根拠

09 旅費 7千円  
 10 需用費 20千円 (収入印紙20千円)  
 11 役務費 761千円 (土地鑑定233千円、補償鑑定528千円)  
 12 委託料 759千円 (土地境界測量委託)  
 16 土地購入費 26,302千円 (保存用土地購入)  
 21 補償金 614千円 (塀など工作物)  
 ※歳入 国庫補助金 22,443千円 (対象経費28,054千円の80%)

予算の方向性	理由
維持	

方向性

市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度かどうか		

# 令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報								
事務事業名	861 小田城跡保存整備委員会事業							
戦略プラン					担当部課 係名	教育局文化財課 保存係・活用係		
総合戦略					新規・継続	継続		
					事業分類	任意の事務		
予算科目	01-100503-15 小田城跡に要する経費				市民参加	<input checked="" type="checkbox"/> 共有、理解 <input checked="" type="checkbox"/> 企画・立案、計画 <input type="checkbox"/> 実行 <input checked="" type="checkbox"/> 評価・検証		
要求区分		事業期間	年度～令和元年度					
個別計画	史跡小田城跡保存整備基本計画							
根拠法令	文化財保護法				事業体制	職員のみ		
					市長公約			
概要								
事業の目的				事業の概要				
文化庁の指導により、「小田城跡」の保存・活用及び確認調査事業を、総合的・効果的に推進を進めるための指導組織が必要なため。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成員は地元住民代表・市議会代表・専門研究者等で、公有化・発掘調査・復元整備・管理活用・その他必要な事項について協議する。</li> <li>・特に専門的事項は別に専門部会を置いて指導を受ける。</li> </ul>				
評価								
事業計画				活動実績				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の経過に伴い、本委員会を1回、専門部会を2回実施する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存整備事業の整備工事が平成28年度で、発掘調査が平成30年度で終了したことから、保存整備委員会も今年度で一旦休止とした。</li> <li>・数年間実施してきた発掘調査の内容を、報告書作成に際して検討するため、専門部会を1回実施した。令和2年（2020年）1月24日</li> <li>・本委員会は、実施しなかった。</li> </ul>				
成果				課題				
委員会を実施して、調査報告書における調査内容の評価についてや、今後の小田城跡保存活用事業について、有効な助言を得ることができた。								
改善目標（R02年度にむけて）								
指標の推移								
1	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
2	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

3	指標の概要							
	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	指標の概要							
	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	指標の概要							
	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

コストの推移						
項目			平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円)	0	0	0	0
	県支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	その他	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	195	85	0	0
事業費計		(千円)	195	85	0	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	0.05	0.05		
		時間外勤務 (時間)	0.00	0.00		
	臨時職員等	(有無)	無	無		
人件費		(千円)	353	353		
事業コスト		(千円)	548	438		

R02年度当初積算根拠	なし
-------------	----

予算の方向性	理由	保存整備事業の整備工事が平成28年度で、発掘調査が平成30年度で終了したことから、保存整備委員会も今年度で一旦休止とした。
廃止		

方向性		
市民ニーズ	1	ニーズはほとんどない、又は不明である。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与		今年度で事業が終了する。
行政が関与する必要性について		
優先度		法令等により、市の実施が定められている。又は、今年度で事業が終了する。
事業の優先度はどうか		



	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移						
項目			平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円)	154,770	146,675	148,596	0
	県支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	29,000	33,000	33,400	0
	その他	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	9,693	3,669	3,750	0
事業費計		(千円)	193,463	183,344	185,746	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人)	0.20	0.20		
		時間外勤務 (時間)	0.00	10.00		
	臨時職員等	(有無)	無	無		
人件費		(千円)	1,412	1,437		
事業コスト		(千円)	194,875	184,781		

R02年度当初積算根拠	役務費 495千円 (不動産鑑定手数料) 公有財産購入費 185,251千円 (保存用地購入)					
	※歳入 国庫補助金 148,596千円 (史跡等買上げ事業・対象経費の80%) 金田官衙遺跡用地取得事業債 34,700千円 (市負担分の90%)					

予算の方向性	理由
維持	

方向性		
市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	3	やや遅れたが、今年度の実施計画を達成した。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	3	他の事業に優先して進める必要がある。
事業の優先度はどうか		



	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 0	0	0	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 0	0	0	0
	一般財源	(千円) 25,683	4,288	1,271	0
事業費計		(千円) 25,683	4,288	1,271	0
人件費内訳	正職員 従事割合 (人)	0.25	0.20		
	時間外勤務 (時間)	0.00	0.00		
	臨時職員等 (有無)	無	無		
人件費		(千円) 1,765	1,412		
事業コスト		(千円) 27,448	5,700		

R02年度当初積算根拠	補助金 1,271千円 (指定文化財修繕300千円、大塚家住宅差茅修繕等676千円、民俗文化財保存240千円、大塚家住宅火災報知器点検55千円)
-------------	--

予算の方向性	理由	県指定文化財筑波山神社神橋の修理補助が完了したため。
縮小		

方向性		
市民ニーズ	3	今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		

# 令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報										
事務事業名	866 文化財展示講座等事業									
戦略プラン	I	3	3	文化財保護の推進			担当部課	教育局文化財課		
総合戦略							係名	活用係		
							新規・継続	継続		
							事業分類	任意的事務		
予算科目	01-100503-18			歴史文化教育・活用に関する経費						
要求区分				事業期間			市民参加	<input checked="" type="checkbox"/> 共有、理解 <input type="checkbox"/> 企画・立案、計画 <input type="checkbox"/> 実行 <input type="checkbox"/> 評価・検証		
個別計画	つくば市文化財保存活用計画									
根拠法令	文化財保護法、市教育振興計画						事業体制	一部委託		
							市長公約	72		

## 概要

事業の目的	事業の概要
<p>県内でも有数の内容を誇る市の歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育むとともに観光等へ活用することで市のプロモーションに寄与するため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示施設や市庁舎を巡る巡回企画展を開催し、テーマに沿った講演会等を実施</li> <li>古文書読解等の文化財講座の実施</li> <li>平沢官衙遺跡歴史ひろば、小田城跡歴史ひろばにおける史跡活用催事の開催</li> </ul>

## 評価

事業計画	活動実績
<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季を中心とする展示施設等での巡回企画展及びテーマに沿った講演会等の開催</li> <li>6～9月と12～3月に各8回古文書読解等の文化財講座の開催</li> <li>四季毎の平沢官衙遺跡歴史ひろば・小田城跡歴史ひろばにおける史跡活用催事の実施</li> <li>遺跡地図を現行のH13年度版から最新の内容に更新し、活用資料として刊行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「万葉の時代のつくば」巡回企画展(1,442人※2/4時)・平沢官衙遺跡周辺歴史ウォーキング(14人)・講演会(83人)開催</li> <li>前・後期各8回の講座を開講し、計54人が参加</li> <li>平沢官衙遺跡で、春の建物開扉(約1,600人)・夏のライトアップ(約600人)・ちびっ子博士開扉(約1,000人)・秋の建物開扉(約900人)・冬の芝文字と防火訓練(116人)を実施</li> <li>小田城跡で、春のキャンドルナイト・秋の大護摩法要と秋の陣(約400名)・冬のどんど焼きと冬の陣(約2,000人)を実施</li> <li>遺跡地図を更新して刊行</li> </ul>
成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>天候等により来場者数が少なかった催事もあったが各文化財展示施設での催事・講座・企画展の実施によって歴史や文化財に対する市民の関心や郷土愛を育むとともに、観光やシティプロモーション等の活性化に寄与することができた</li> <li>遺跡地図を18年ぶりに更新し、活用資料を充実させることができた。</li> </ul>	
改善目標 (R02年度にむけて)	

## 指標の推移

指標名	企画展開催に伴う講演会等の回数 (回)						活動指標
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
1	目標値	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
	実績	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	0.0
指標の概要	企画展のテーマに沿った講演会や体験講座の開催日数						
指標名	( )						
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
2	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 1,000	2,162	1,387	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 159	159	116	0
	一般財源	(千円) 2,601	3,274	2,582	0
事業費計		(千円) 3,760	5,595	4,085	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人) 0.70	0.75		
	時間外勤務	(時間) 350.00	150.00		
	臨時職員等	(有無) 有	有		
人件費		(千円) 5,809	5,666		
事業コスト		(千円) 9,569	11,261		

- R02年度当初積算根拠
- ・臨時職員賃金 1,837千円 (資料作成補助等)
  - ・報償費 142千円 (講師謝礼)
  - ・需用費 608千円 (消耗品費 158千円、展示パンフレット等印刷 450千円)
  - ・役務費 180千円 (郵便料 30千円、運搬等手数料 102千円)
  - ・委託料 1,300千円 (催事委託・平沢 650千円、小田 650千円)
  - ・賃借料 18千円 (展示品運搬用自動車賃借)

予算の方向性	理由	R1年度に遺跡地図刊行が完了したため
縮小		

方向性

市民ニーズ	5	十分に高く、今後も増加が見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		

# 令和元年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報										
事務事業名	865 学校での伝統文化教育支援事業									
戦略プラン	I	3	3	文化財保護の推進	担当部課	教育局文化財課				
総合戦略					係名	保存係・活用係				
					新規・継続	継続				
予算科目	01-100503-18 歴史文化教育・活用に要する経費				事業分類	任意の事務				
要求区分	事業期間					市民参加	<input type="checkbox"/> 共有、理解 <input type="checkbox"/> 企画・立案、計画 <input type="checkbox"/> 実行 <input type="checkbox"/> 評価・検証			
個別計画	つくば市文化財保存活用計画				事業体制		職員のみ			
根拠法令	文化財保護法、教育基本法					市長公約				

## 概要

事業の目的	事業の概要
<p>「歴史・文化教育」は、教育日本一を目指して始まったつくばスタイル科の7本柱の一つに挙げられ、また改正教育基本法等でも重視されていることから、県内でも有数の内容を誇る市の歴史や文化財を、学校教育の中で市内の子供達に伝えるため。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座・文化財施設見学説明</li> <li>・学校教諭対象の説明研修会の開催</li> <li>・つくば市の歴史や文化財を、教育現場で活用しやすい形にまとめるとともに、伝統文化教育を支援する各種教材を学校に提供</li> </ul>

## 評価

事業計画	活動実績
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座・文化財施設見学説明</li> <li>・夏期に学校教諭対象の説明研修会の開催</li> <li>・つくば市の歴史や文化財を、教育現場で活用しやすい形にまとめるとともに、伝統文化教育を支援する各種教材を学校に提供</li> <li>・夏休み期間中、文化財展示施設4館をちびっ子博士事業で対象施設としたほか、自由研究相談室を2日間開催した。</li> <li>・パンフレット類は、小田城跡歴史ひろばの学校向けパンフレットを5,000部印刷予定である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内外の小中学校への出前講座や展示施設での説明案内を29回（見込み）及び市内高校での講座2回を行った。</li> <li>・学校教諭対象の説明研修会を8月に開催し、47名が参加した。</li> <li>・夏休み期間中、文化財展示施設4館をちびっ子博士事業の対象施設としたほか、自由研究相談室を2日間開催した。</li> <li>・パンフレット類は、小田城跡歴史ひろばの学校向けパンフレットを5,000部印刷予定である。</li> </ul>
成果	課題
<p>歴史資料や文化財に触れる機会を手教・支援することで、多くの児童・生徒たちが郷土に関心と愛着を持つ機会を増やすことができた。</p>	<p>児童数の増加や教総バスとの兼ね合いで施設見学が困難な学校のために出前講座を通知したが、貸し出せる民具の点数が限られることから、学校のニーズに答えられないことがあった。</p>

## 改善目標（R02年度にむけて）

施設見学の出前講座の通知をする際に、できることを詳細に通知するとともに、出前講座の内容をマニュアル化する。

## 指標の推移

指標名	講座・説明件数 (件)						活動指標
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
1	目標値	25.0	25.0	25.0	25.0	30.0	30.0
	実績	27.0	30.0	27.0	34.0	30.0	31.0
指標の概要	学校対象に行う出前講座や展示施設見学説明の件数						
指標名	研修会の開催件数 (件)						活動指標
	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
2	目標値	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
	実績	2.0	2.0	1.0	1.0	0.0	1.0

	指標の概要	学校教諭対象の説明研修会の開催						
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

項目		平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 0	0	0	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 0	0	0	0
	一般財源	(千円) 184	210	190	0
事業費計		(千円) 184	210	190	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人) 0.50	0.50		
		時間外勤務 (時間) 50.00	30.00		
	臨時職員等	(有無) 無	無		
人件費		(千円) 3,654	3,604		
事業コスト		(千円) 3,838	3,814		

R02年度当初積算根拠

- ・需用費 190千円 (学校支援用リーフレット印刷代)

予算の方向性	理由
維持	

市民ニーズ	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		



	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成30年度 (決算)	令和 1年度 (決算)	令和 2年度 (当初)	令和 3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 0	0	0	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 0	0	0	0
	一般財源	(千円) 0	25	294	0
事業費計		(千円) 0	25	294	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人) 0.00	0.80		
	時間外勤務	(時間) 0.00	28.00		
	臨時職員等	(有無) 無	無		
人件費		(千円) 0	5,716		
事業コスト		(千円) 0	5,741		

R02年度当初積算根拠  
 報償費 94千円 (ボランティア謝礼)  
 賃借料 200千円 (養成講座・研修用バス賃借料)

予算の方向性  
 理由 H30年度策定の文化財保存活用計画を特色づける事業であり、R1年度が準備期間、R2年度から本格的な実施となるため。  
 拡充

方向性

市民ニーズ	5	十分に高く、今後も増加が見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		



	指標の概要							
3	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
4	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							
5	指標名	( )						
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度
	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	指標の概要							

コストの推移

項目		平成30年度 (決算)	令和1年度 (決算)	令和2年度 (当初)	令和3年度 (当初)
財源内訳	国庫支出金	(千円) 0	0	0	0
	県支出金	(千円) 0	0	0	0
	地方債	(千円) 0	0	0	0
	その他	(千円) 74	54	33	0
	一般財源	(千円) 103,693	54,512	60,676	0
事業費計		(千円) 103,767	54,566	60,709	0
人件費内訳	正職員	従事割合 (人) 0.70	0.75		
	時間外勤務	(時間) 265.00	50.00		
	臨時職員等	(有無) 有	有		
人件費		(千円) 5,598	5,418		
事業コスト		(千円) 109,365	59,984		

R02年度当初積算根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>需用費 3,847千円               <ul style="list-style-type: none"> <li>①消耗品費303千円 ②光熱水費3,152千円③修繕料392千円</li> </ul> </li> <li>役員費 1287千円               <ul style="list-style-type: none"> <li>①通信運搬費(電話料) 215千円 ②手数料51千円 ③桜歴史民俗資料館案内業務704千円</li> <li>④保険料317千円</li> </ul> </li> <li>委託料 55,048千円</li> <li>使用料及び賃借料 512千円</li> <li>負担金補助及び交付金15千円</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>※歳入33千円               <ul style="list-style-type: none"> <li>①その他特財・行政財産使用料10千円(平沢官衙遺跡案内所自動販売機設置料等)</li> <li>②その他特財・教育費雑入23千円(自動販売機電気料等)</li> </ul> </li> </ul>

予算の方向性	理由	植栽維持管理委託料の増額が避けられないため。
拡充		

方向性		
市民ニーズ	4	十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
市民ニーズと今後の見込み		
進捗状況	4	計画通りに進めることができた。
事業が計画的に進んでいるか		
市の関与	2	今後も市が実施するほうがよい。
行政が関与する必要性について		
優先度	2	継続して実施する必要がある。
事業の優先度はどうか		

◆市民ニーズ（市民ニーズと今後の見込み）

- 5 十分に高く、今後も増加が見込まれる。
- 4 十分に高く、今後も変わらずにあると見込まれる。
- 3 今後も一定の市民ニーズが見込まれる。
- 2 今後は減少すると見込まれる。
- 1 ニーズはほとんどない、又は不明である。

◆進捗状況（事業が計画的に進んでいるか）

- 5 当初の計画を上回る進捗で事業を実施することができた。
- 4 計画通りに進めることができた。
- 3 やや遅れたが、今年度の実施計画を達成した。
- 2 計画から遅れている。（未達成）
- 1 計画から大幅に遅れている。（未達成）

◆市の関与（行政が関与する必要性について）

- 3 法令等により、市の実施が定められている。
- 2 今後も市が実施するほうがよい。 ※行政上の専門知識が必要であることや事務内容等を考えて、市が実施するほうがよい。
- 1 民間等への移管を検討する必要がある。
- 0 今年度で事業が終了する。

◆優先度（事業の優先度はどうか）

- 3 他の事業に優先して進める必要がある。  
※戦略プラン等の重点事業である。市民生活への影響等を鑑みて、優先する必要がある。
- 2 継続して実施する必要がある。  
※他の事業に優先する必要はないが、市民ニーズや市民生活への影響等を鑑みて、今後も継続して実施する必要がある。
- 1 事業の継続について検討する必要がある。  
※同様の目的を持つ事業との統合や事業の廃止等を検討する必要がある。
- 0 法令等により、市の実施が定められている。又は、今年度で事業が終了する。

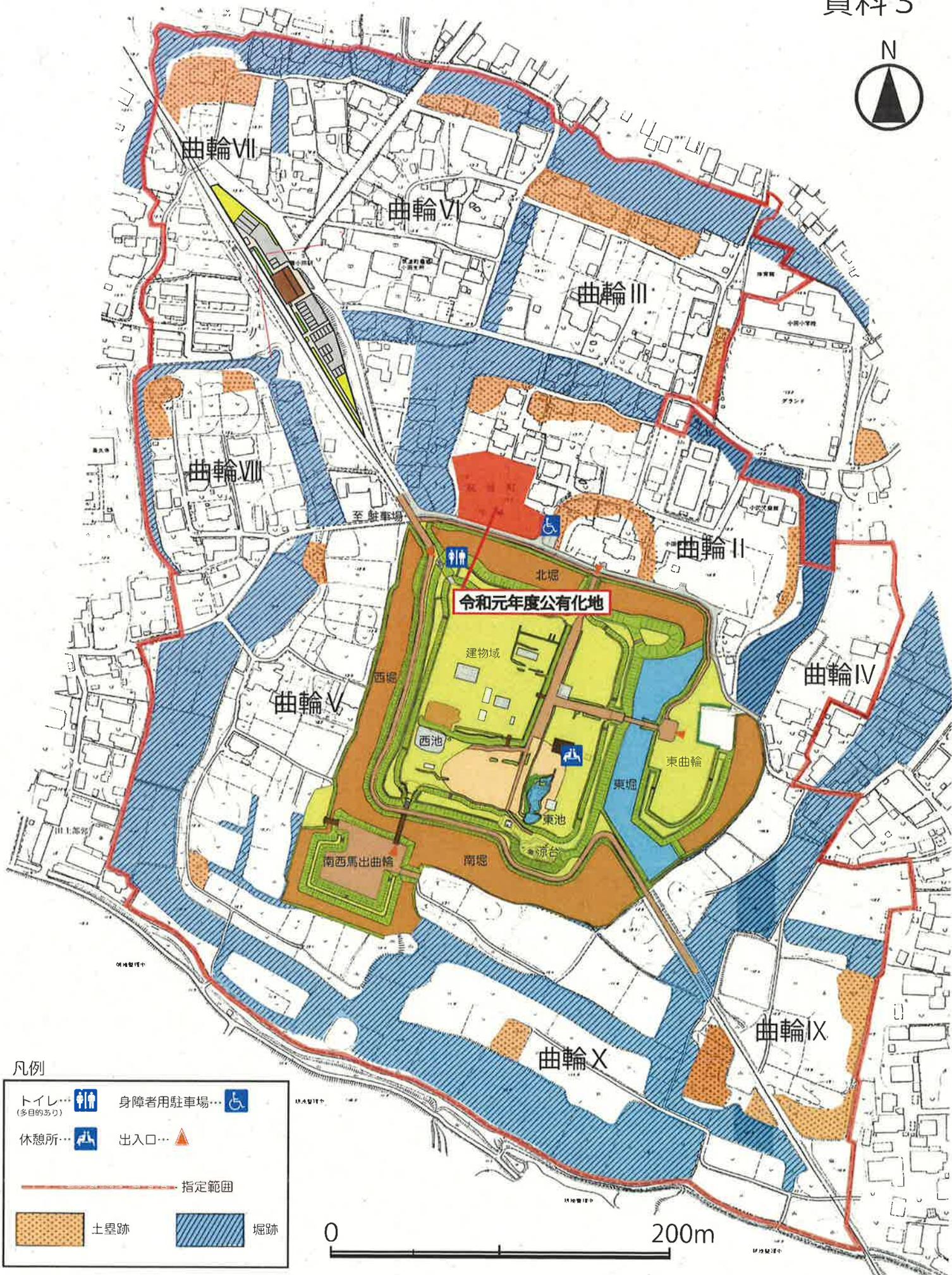
『文化財保存活用計画』 記載施策の進捗管理表

進捗状況評価 凡例  
 A めざましく進展があった B 順調である  
 C やや遅れている D 遅れており改善が必要で

資料2

○評価時期：令和2年（2020年）2月・令和元年度事業実績（一部見込）

基本施策	施策	市予算事業	R1から市の事務事業	継続する取組み	新規開始・充実・強化を図る取組み・早期	担当課自己評価	進捗評価	進捗状況に対する意見
1 文化財の現状や価値を正確に把握する	1 各種文化財調査事業	12 文化財調査	12 01 各種文化財基本調査	・ 悉皆調査 ・ 調査成果の報告書・パンフレット等による市民向けの情報発信	・ 市内の大学・研究機関との連携をより密に	B		
	2 埋蔵文化財調査事業	12 文化財調査	12 02 埋蔵文化財調査・保存	・ 開発対応の調整・調査業務 ・ 業務の効率化・体制整備を検討	・ 史跡周辺埋蔵文化財の内容確認調査	B		
		15 小田城跡	15 04 小田城跡確認調査	—	—	C		
	3 文化財現況確認事業	12 文化財調査	12 01 各種文化財基本調査	・ 茨城県文化財保護指導委員との文化財巡視	—	B		
	4 市史編纂事業	14 市史編纂	14 市史編纂	・ 市史編纂の基礎となる史・資料調査	—	B		
2 文化財を適切に後世に伝える	1 各種文化財保存事業	11 文化財保護審議会	11 文化財保護審議会	—	—	B		
		13 文化財維持管理	13 01 市管理文化財維持管理	・ 指定名称の見直し ・ 文化財の適切な維持・修理 ・ 復元や案内板・解説板の設置等の環境整備	・ 市指定・認定基準を早期に検討し制度を円滑に活用 ・ 各種文化財成果をもとに重要物件を指定制度・認定制度等での積極的な保護を検討 ・ 文化財台帳内容の補充 ・ 市内の研究所・機関と保存科学分野での連携	B		
	2 史跡保存事業	15 小田城跡	15 01 小田城跡保存	・ 小田城跡の保存上必要な土地の公有化	—	B		
			15 02 小田城跡保存整備委員会	—	—	B		
		17 金田官衙遺跡	17 金田官衙遺跡保存・活用	・ 金田官衙遺跡の保存上必要な土地買収	—	B		
	3 埋蔵文化財保存事業	12 文化財調査	12 02 埋蔵文化財調査・保存	・ 開発等手続きの徹底化	・ 遺跡地区の改訂版作成	A		
	4 民有文化財保存事業	13 文化財維持管理	13 02 民有文化財補助	・ 所有者等による修理・保存事業に対する助言・補助金等の支援	—	B		
3 文化財を市民のために活用する	1 文化財普及・周知事業	18 歴史文化教育・活用	18 02 文化財展示講座等	・ 巡回企画展・講演会等の実施 ・ 各種講座や講演会等の開催 ・ 歴史ひろばで定期的にイベントを開催・地域振興の拠点として活用 ・ パンフレット等資料作成	・ 発掘現場見学・体験学習・民間所有文化財公開等の実施 ・ 市ウェブページを更新して周知 ・ 文化財展示施設の活用施策充実	B		
	2 学校での伝統文化教育支援事業	18 歴史文化教育・活用	18 01 学校での伝統文化教育支援	・ つくばスタイル科等授業での施設解説や出前講座の実施・教育研究会社会科研究部・ちびっ子博士事業との連携を推進 ・ 子ども向け資料作成・社会科副読本協力	・ 大学・高校と連携し、大学生・高校生が海外留学生や小・中学生への解説を担い、両者共に歴史や文化財への理解を深める事業を検討	B		
	3 文化財サポーター事業	18 歴史文化教育・活用	18 03 文化財サポーター	・ ボランティア・市民団体と連携した事業を拡大・実施	・ 文化財サポーター育成講座の開催 ・ ボランティアによる民具の使い方実演や戦争・学園都市建設前後の体験談等の学校教育支援等プログラム化検討 ・ 集落祭礼活性化を検討	B		
	4 文化財施設管理事業	16 文化財展示施設管理	16 文化財展示施設管理	・ 施設の適正管理	・ 文化財保管施設を廃校利用を視野に入れ早急に確保 ・ 平沢官衙遺跡保存活用計画策定及び再整備事業着手	A		



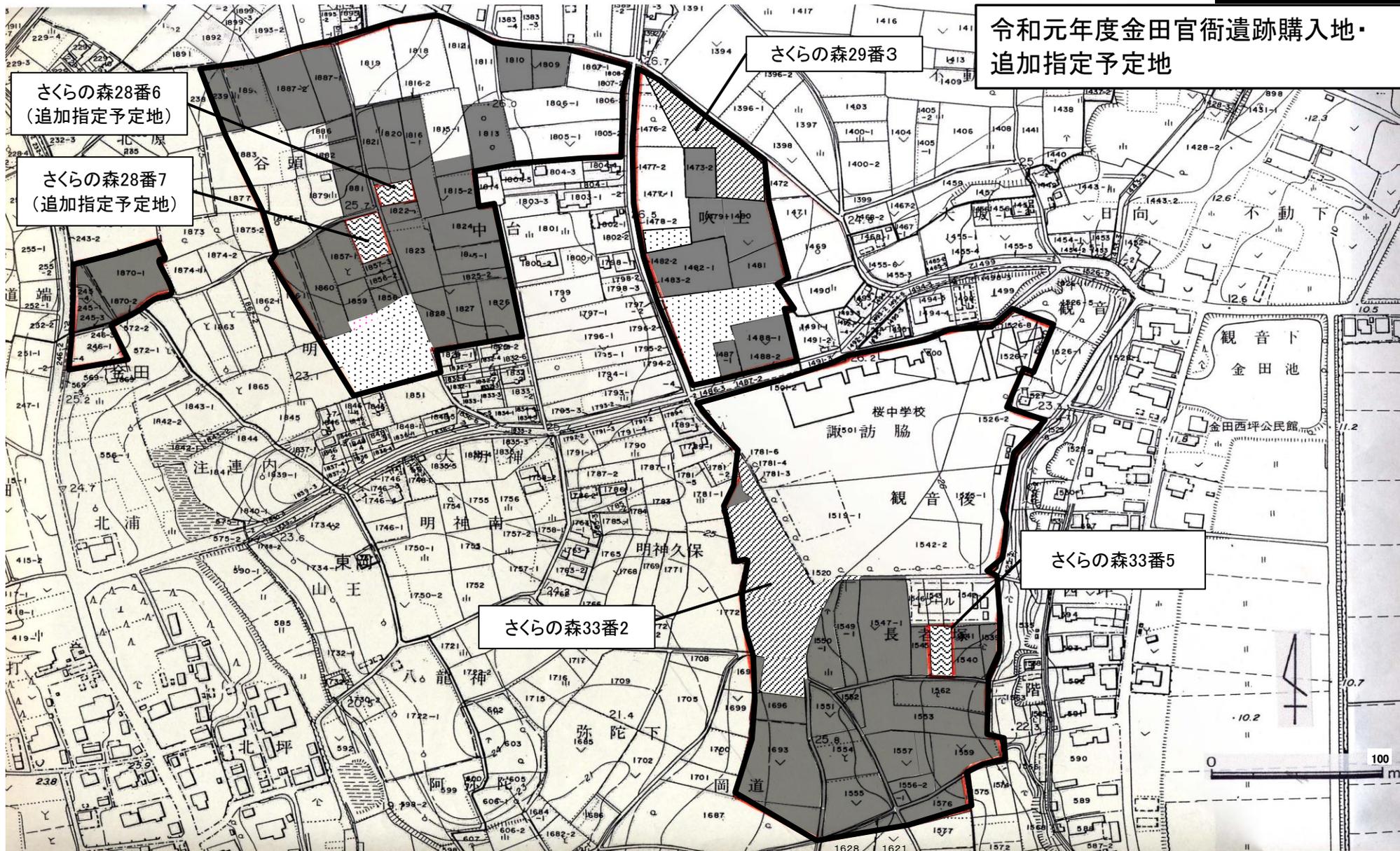
凡例

トイレ… (多目的あり)		身障者用駐車場… 
休憩所… 	出入口… 	
— 指定範囲		
	土塁跡	
		堀跡

0 200m

# 資料4

令和元年度金田官衙遺跡購入地・追加指定予定地



H30まで購入地

R1購入地

R2購入予定地

R2購入予定地



大つげ(剪定前・東から)



大つげ(剪定前・南東から)



大つげ(剪定後・東から)



大つげ(剪定後・南東から)



筑波山神社神橋 修理工事完了後(南西から)



筑波山神社神橋 修理工事完了後(北西から)



筑波山神社神橋 修理工事完了後(南から)



田倉三匹獅子(1985年撮影)

## 市指定文化財薬師堂修理



向拝柱の傾斜が進行。令和元年8月に応急措置の補強をしている。



向拝の垂木等は傷んでおり、木材の交換が必要。(令和元年6月撮影)



濡縁の板は全体的に腐朽しており、釘も露出している。



屋根北・西面。台風により大きく破損、他にも南面の一部が破損。トタンの下には茅葺き屋根が残っている。



腐朽した向拝垂木はすべて交換、一部を金具で補強。



向拝柱を直立させ、補強材を追加。



西面を除く三方の濡縁の板を交換。



台風で被害を受けたトタン屋根を修復。



小田火祭り和小田城  
秋の陣2019  
火渡りの状況



平沢官衙遺跡周辺歴  
史ウォーキング  
平沢1号墳説明状況



平沢官衙遺跡  
春の芝文字  
芝文字完成とジャグリ  
ング実施状況

## 「つくば市文化財解説ボランティア」について

### 1 目的

市民等が、市が実施する文化財関係業務に幅広く参画することで、市の歴史や文化財、文化財保存活用施策を知り、文化財保護への理解を深める機会とする「つくば市文化財サポーター」事業の第一歩として、文化財及び文化財展示施設の解説を主に行うボランティアの登録制度を創設する。

将来的には事業の安定を見計らい、解説以外の一般的なボランティア制度へと広げていく。

### 2 概要

市文化財課を事務局とし、ボランティア登録した市民等から募集して文化財及び文化財展示施設の解説やその他の保存活用事業を依頼する。

解説にあたっては一定の知見が必要となるため、解説ボランティア養成講座を修了したことを登録の要件とする。また、「谷田部地区（及び谷田部郷土資料館）」、「桜地区（及び桜歴史民俗資料館）」等の区分に応じた養成講座を修了した者を「谷田部マスター」「桜マスター」と称し、それぞれの地区等の解説を依頼する要件とする（文化財マスター制度）。

### 3 ボランティア登録について

(1) 登録には以下の要件を設ける。

- ・年齢が18歳以上であること。
- ・いずれかの地区等の解説ボランティア養成講座を修了していること。

### 4 事業の内容

当面は以下の事業への参加を主とする。

- (1) 展示施設の解説（当面は学校見学の多い桜歴史民俗資料館・谷田部郷土資料館を中心とし、課員＋解説ボランティアの構成で行う）
- (2) 団体等の文化財解説依頼への対応（解説の経験を積んでからとする。また、小田城跡等の既存団体があるところは既存団体に任せる）

- (3) 講演会等のイベント補助
- (4) 文化財の美化活動兼見廻り兼見学（課員が解説をしながら定期的実施）

## 5 登録者・登録希望者に対する事業の内容

- (1) 展示解説等で必要な専門的知見を学ぶボランティア養成講座の開催
    - ※谷田部・桜を基礎的な講座として、毎年2回程度開催する。
  - (2) 解説ボランティアステップアップのための研修会の開催
    - ※谷田部・桜以外の養成講座と兼ねながら、適宜行う。
  - (3) 文化財イベント等の情報配信
    - ※市の事業を主に随時行う。
- ※ 登録者との連絡等は電子メールを基本とする。どうしても郵送での連絡を希望する方には、郵送料等を実費で負担して頂く。

## 6 その他

- (1) 展示解説等の市から依頼する業務は費用弁償程度（1回1,000円程度）の有償、美化等の養成講座での知見の習得と関係なく参加できるものは無償を基本とする。
- (2) 講座及びボランティア活動は、市が加入している全国市長会市民総合賠償補償保険の対象となる。

## つくば市文化財解説ボランティア実施要項

### (目的)

第1条 この規約は、つくば市教育委員会（以下「委員会」という。）と市民等が協働して文化財の保存と活用を推進することを目的に、委員会が実施する文化財及び文化財展示施設の解説を主とした文化財保存活用事業（以下「事業」という。）に市民等がボランティアとして参加する上で、必要な事項について定めるものである。

### (定義)

第2条 委員会が実施する事業に自主的に参加する個人で、第4条の規定により登録された者を、つくば市文化財解説ボランティア（以下「文化財ボランティア」という。）とする。

### (事業内容)

第3条 文化財ボランティアは、委員会の依頼により次の事業に参加する。

- (1) 文化財及び文化財展示施設の解説
- (2) その他の文化財課が行う調査・保存・活用に関する事業

### (文化財ボランティアの養成)

第4条 委員会は、ボランティア活動への参加希望者を対象に、文化財や文化財展示施設の解説ができることを目的としたつくば市文化財解説ボランティア養成講座（以下「養成講座」とする）を開催する。

- 2 養成講座は地区や展示施設毎に開催し、いずれかの地区等の講座を修了したことを文化財ボランティア登録の要件とし、特定の地区等の講座を修了したことをその地区等の解説に応募する要件とする。
- 3 つくば市教育委員会教育長は、養成講座を修了した者へ修了した地区等を記載した修了証を発行する。

### (登録)

第5条 文化財ボランティアへの登録条件は次のとおりとする。

- (1) 年齢が18歳以上の者。
  - (2) 委員会が開催するつくば市文化財解説ボランティア養成講座を修了した者。
- 2 登録に必要な条件は、前号に関わらず教育委員会が特別に認める場合はこの限りではない。
  - 3 登録を希望する者は、別紙に定める様式1により申込むものとする。
  - 4 登録期間は、登録した年度を含めて3年度とする。ただし、1月から3月の間に登録した場合は、4月から3年度と数えるものとする。
  - 5 文化財課は、登録期間の更新に関して何らかの方法で意向確認をおこなうものとする。
  - 6 登録内容の変更を希望する場合、様式2を提出するものとする。
  - 7 登録の抹消を希望する場合、様式3を提出するものとする。

8 委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合、予告なく登録を抹消することができる。

- (1) 様式に虚偽の記載があった場合
- (2) 参加した事業において不適切な行為をおこなった場合
- (3) 特定の政治活動や宗教活動の場として事業を利用した場合
- (4) その他委員会が必要と判断する場合

(個人情報取扱い)

第6条 文化財ボランティアの登録に際して委員会が提供を受けた個人情報については、委員会からの活動や研修などの募集、依頼、連絡、委員会が作成する統計情報、保険への加入、イベント情報などの提供についてのみ使用し、第三者へ開示・提供することはないものとする。

(事業への参加)

第7条 委員会は、事業への参加者を文化財ボランティアに登録した者から募集する。

- 2 委員会は、応募者から参加者を選定して参加を依頼する。
- 3 参加者募集などに関する連絡は、原則として電子メールにて行う。
- 4 文化財ボランティアは、事業に参加したときには委員会の指示に従うものとする。
- 5 文化財ボランティアは無償を基本とするが、委員会は依頼した事業の内容に応じて費用弁償に相当する額程度の謝礼を支払うことができるものとする。

(活動における責任の所在について)

第8条 原則として文化財ボランティアは自己の責任において活動に参加するものとする。

- 2 委員会は、事業の内容を鑑みて、必要に応じてボランティア保険等に加入するものとする。
- 3 第3条に掲げる事業に関係のない恣意的な行為により、文化財ボランティアが第三者に対して損害を与えた場合、もしくは第三者と紛争を生じた場合は、委員会は一切責任を負わないものとする。

(研修その他)

第9条 委員会は、登録者を対象とした研修などを、必要に応じて開催する。

- 2 委員会は、登録者に対して市内の文化財に関するイベント情報などを、原則として電子メールにて随時提供する。

(事務局)

第10条 文化財ボランティアに係る事業及び庶務は、つくば市教育局文化財課が行う。

(改定)

第11条 この規約は委員会により適宜改定できるものとする。

(附則)

この規約は、令和2年(2020年)1月21日より施行する。

## 下岩崎観音堂について

### 1 経緯

令和元年11月、情報誌「プレスデン」において下岩崎観音堂の絵馬の指定・修復及び仏像の指定の要望があることを知った。また、1月には市役所1階のパネル展示でも、同様の要望が書かれていた。11月以降、下岩崎観音堂について文化財課が現地確認及び聞き取りをした内容について、中間報告をする。

### 2 由来

下岩崎観音堂は、戦国時代末期、豊臣秀吉から小野川地区から牛久にかけて領地を与えられた由良氏が、滅亡した小田氏の同族、岡見氏を弔うために岡見氏旧領の谷田部から牛久にかけて建立したとされる「七観音八薬師」のうちの一つと伝わる。

なお、記事では由良氏が戦国時代を生き残る契機となったとの逸話が伝承される「妙印尼」を、女性の社会進出の先駆けとして大きく取り上げている。

### 3 現在の管理

- ・ 建物等は、下岩崎所在の守徳寺の管理であるが、実際は下岩崎住民から持ち回りで選任される寺総代が管理している。
- ・ 地元でこれまで絵馬や仏像の保存が話題となったことはなく、後世に伝わっていけば良いと思うが、修復が高額であれば難しいだろうとのこと。

### 4 物件の状況

#### (1) 建物

- ・ 七観音八薬師建立の伝承では文禄元年（1592）建立とされる。
- ・ 『荃崎村史』では慶安3年（1650）に根來出雲守が建立したとしている。
- ・ 地元では明治時代に集落南にあった建物を移築したと伝わる。
- ・ 建造物としては、古材転用の可能性はあるが近現代の改変が大きい。

#### (2) 絵馬

- ・ 幅120cm、高さ60cmほどの大型のもの。
- ・ 大勢の女性が左手の観音様を拝む様子が描かれており、江戸時代から続いていた女人講に関係したものと考えられる。
- ・ 建物の南面外壁、庇の下に掛けられている。塗料の剥落がみられる。
- ・ 表面には作者や作成年代等の由来は書かれていない。裏面は未調査。
- ・ 地元では小川芋銭に習った下岩崎住人が描いたと伝わっており、大正から昭和初期頃のものと考えられる。

#### (3) 仏像

- ・ 観音堂内部に5軀の仏像が納められている。
- ・ 『荃崎村史』では、本尊として空海上人作とされる如意輪観世音が、寺宝として長禄2年（1458）の十一面観世音が記載されている。それぞれ中央の彩色のものと、左手の大型のものと思われる。
- ・ 時期や由来等を含めて専門家による調査が必要。

下岩崎観音堂



下岩崎観音堂（南から）



女人講絵馬



女人講絵馬



下岩崎観音堂内部（南から）



如意輪観音像（本尊）



寺宝とされる観音像か

## 解脱寺本堂実測調査結果に基づく所見（中間報告）

本報告は解体・建替工事予定の勢至山一心院解脱寺本堂（つくば市小田3146番地所在）の記録保存調査について、業務委託先である株式会社里山建築研究所の中間報告内容から抜粋したものである。

### 1 平面

現在の解脱寺本堂は、間口7間半、奥行き6間半の平面で、中央に3間半の内陣と外陣、両脇に脇間がそれぞれ2間、梁間方向は、奥に2間の内陣と手前に2間半の外陣、前に1間の縁がつくという平面構成である。内陣、外陣まわりは、全てケヤキの丸柱であるのに対して、外周部はスギの正角材である。

### 2 構造

現状は、瓦葺き寄せ棟屋根である。屋根を支える主要な梁（本梁）は、桁行方向は内陣外陣よりも1間外側まで延びており、さらに半間の出し桁とし、さらにそこから桔木で軒を延ばして下屋を構成している。梁間方向は、内陣と外陣に梁が架けられ、そこからさらに半間の出し桁として、前面はそこから桔木で庇を延ばして下屋を構成している。その本梁の上に和小屋を組んで、6寸5分勾配で軒先は5寸5分勾配の反り屋根となっている。床組は、石場建てで、柱が床下までのびて、床下部分は、貫で相互にかためてある。大引が主要な柱を相互につないで足固めとなっている。

### 3 復原

- （1）現在の内陣外陣は慶長19年建設当初の構造である。
- （2）享保11年に、火災により屋根に損傷を受けて小屋組の改造が行われ、本梁の一部も交換された。その際に、桁行方向および梁間方向前面に1間の下屋が内部に取り込まれ、そのための虹梁一対が増設され、茅葺きの5間堂の姿となった。
- （3）昭和2年に、屋根を茅葺きから瓦葺きへ葺き替え、それにあわせて小屋組が現在の構造に改築された。それとともに桔木によって桁行方向両側の下屋をさらに1間ずつ拡大して脇間を増築した。その結果、屋根は方形から寄せ棟へと変わり、現在の7間堂の姿となった。

#### 4 経年変化に伴う構造変形と部材の劣化

(1) 内外陣周り、外周部共に、耐震上危険とされる 1/30 以上南に傾いている。

(2) 外周部前面は 1/60 程度東に傾いており、背面は 1/60 程度西に傾いている。

すなわち全体として反時計回りにねじれが生じている。

(3) 本梁から上の小屋組が健全である一方、軸組は 1/30 以上傾いているところが多く、建具の建て付けや使用上不具合があるばかりでなく、耐震上危険とされる範囲を超えている。1/30 以上の傾きのために、主要構造の接合部に一部ゆるみや損傷が生じている。この点からも構造強度の低下が大きい。床の不陸は、内外陣周りで最大 1/90、外周部で最大 1/30 に達しており、不陸の許容値の目安とされる 1/150 を大きく上回っており、使用上支障がある。

#### 5 修理の可能性と指針について

(1) 文化財としての価値からは、建設当初のものである可能性の高い、丸柱で構成される内外陣の 3 間堂が、慶長年間の意匠、構造を残すものとして価値が高く、また、それを覆う本梁の梁組も同様貴重であり、修理保存が望まれる。

(2) 現状の構造の変形や不陸を考慮すると、建て起こしなどによる修理は困難であり、解体修理が必要である。一方で、柱や梁などの部材は健全なので、仕口等のゆるみや損傷を補強して修理保存することは可能である。

(3) 昭和の改築により桔木で増築された脇間および外周部は、構造も簡易で、変形や劣化も大きいことから、修理保存する価値は低い。

(4) 当初の屋根の構造を支えた本梁をいかして、内外陣の周りに 1 間の下屋が廻る享保の姿である方形 5 間堂への復原は、文化財としての価値を保持し、かつ本堂の使用上および耐久性の点からも利点大きい。

(5) 筑波山麓の歴史的景観保全活用の観点にたち、国史跡平沢官衙（古代）の復元に加えて、国史跡小田城跡（中世）の復元による歴史的町並み整備を視野に入れると、現存する近世初頭の貴重な遺構である解脱寺本堂は、この地域の歴史をたどる上でも、また筑波山を背景とした歴史的景観を構成する建築としても極めて重要であり、解脱寺本堂をこれらの歴史的町並み整備事業の一環として修理保存することが望ましい。

